



full service /
生活サポートも
充実!
任せて安心

勉強に集中できる住環境で将来の夢を叶える!

医学部受験生用

フルサービス付き 賃貸マンション

家具 家電 食事 清掃 フロントサービス

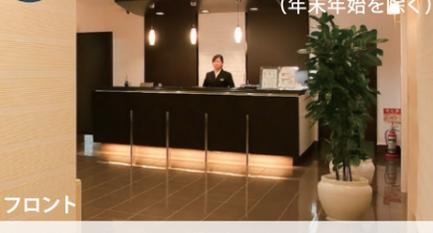
北区の交通至便で閑静な住宅地です。
また、他の入居者は大手法人の単身赴任の社員様で居住環境も良く、勉強に集中出来ます。

ラ・メール北大阪と
直接ご契約の場合、
仲介手数料が
かかりません

大阪医科薬科大学 仁泉会 ニュース

仁泉会ニュース 第57巻第1号
発行所
〒569-8686 高槻市大学町 2-7
電話 072-682-6166 FAX 072-682-6636
発行者 上野 豊 発行部数 6,300部
URL http://www.jinsenkai.net

フロントコンシェルジュが通年で常駐
(年末年始を除く)



生活面での困りごとなどお気軽にご相談できます。
宅配便の手配もお任せください。

ラ・メール北大阪の **他にはない**
医学部予備校生への
支援サービス



不在時も安心のサービス

ご不在時に届いた宅配便や郵便書留等は、玄関先まで女性スタッフが
お部屋入れいたしますので、留守中も安心。また、重量物を運んだり、
再配達の手間が省けます。

お食事はシェフがその場で調理!!



朝食 446円
夕食 891円
食事の一例
食事代は利用回数で精算。その日の予定に合わせられます。

24H
無料交換サービス
家具家電が故障や破損時、無料交換
致します。(電球切れも無料交換)

24H
24時間ゴミ出しOK!
各階にゴミステーションを設置しております。
FREE
インターネット接続料無料

水道・ガス(給湯)
・NHK料金 月額4,400円
各費用が実費の場合の半分に
取まりお得です。(電気代のみ実費)

0+
違約金・更新費用0円
契約期間内で退去されても違約金、その他の費用はか
りません。継続更新されても更新費用もかかりません。

勉強もはかどる落ち着いた部屋で快適な暮らし。



1Room Aタイプ
管理費込総額(月額)
**80,000円~
88,000円**
25.88㎡(約7.82坪)

- エアコン
- 薄型液晶TV32インチ
- セミダブルベッド(枕、布団付)
- 備え付け机・椅子
- 冷蔵庫・電子レンジ
- 洗濯機
- テーブル&ソファ
- ウォシュレット



月2回室内清掃付き!
水回りシーツ交換含む



■物件名称/ラ・メール北大阪■所在地/大阪府大阪市北区同心1丁目■交通/JR環状線「天満」駅徒歩8分、大阪メトロ堺筋線「扇町」駅徒歩8分■構造/規模/鉄骨鉄筋コンクリート造10階建■総戸数/117戸■築年/1988年■タイプ/1R・1LDK■管理費/賃料に込み■敷金/20,000円■礼金/賃料の2ヶ月分■取引態様/貸主直■備考/図面と現況が異なる場合は現況を優先いたします。

アクセス 新大阪へ2駅!
4線5駅に徒歩10分以内

- JR大阪環状線「天満」駅徒歩8分
- JR大阪環状線「桜ノ宮」駅徒歩8分
- 地下鉄堺筋線「扇町」駅徒歩8分
- JR東西線「大阪天満宮」駅徒歩9分
- 地下鉄谷町線「南森町」駅徒歩10分



契約内容や諸条件などは柔軟に対応いたします

お問い合わせ・お申し込み等、下記へお気軽にご連絡ください

ラ・メール北大阪
ラ・メール北大阪直通ダイヤル **06-6354-4936**

〒530-0035 大阪府大阪市北区同心1丁目9-13 FAX/06-6354-4937 Mail/m-kimoto@key.ocn.ne.jp

平日/ 8:00~22:00
土日祝/ 9:00~18:00
又は、ラ・メール北大阪
営業担当木本(キモト)まで
090-8658-5122

詳しくは下記QRより
ご覧ください

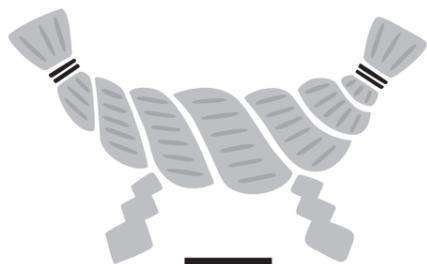


謹賀新年

新年のご挨拶

- P3 大阪医科薬科大学仁泉会 理事長
P4 学校法人大阪医科薬科大学 理事長
P5 東日本支部 支部長
P6 長野県支部 支部長
P7 京都仁泉会 会長
P8 仁泉会大阪府支部連合会 会長
P9 北区支部 支部長
P10 阿倍野支部 支部長
P11 港区支部 支部長
P12 浪速支部 支部長
P13 生野区支部 支部長
P14 東住吉・平野支部 支部長
P15 住吉住之江支部 支部長
P16 高槻支部 支部長
P17 大阪医科薬科大学仁泉会 学内支部長
P18 和歌山県支部 支部長
P19 岡山県支部 支部長
P20 香川県支部 支部長
P21 学45期 評議員

- 上野 豊 (学27期)
佐野浩一 (学29期)
中嶋秀人 (学37期)
高島俊夫 (学21期)
吹田浩之 (学36期)
後藤亮太郎 (学45期)
寺村和久 (学37期)
霜野良一 (学28期)
太田祥彦 (学38期)
福本敏子 (学24期)
奥村隆司 (学31期)
久保田泰弘 (学36期)
村田高穂 (学22期)
長谷川利雄 (学32期)
濱崎憲夫 (学42期)
保田 浩 (学31期)
南 敏明 (学36期)
湯川裕史 (学29期)
小出尚志 (学28期)
大谷昌裕 (学40期)
森内宏充 (学45期)



目次

受章報告

- P16 瑞宝小綬章 教育研究功労
旭日双光章 保健衛生功労
藍綬褒章 保健衛生功労
河野公一 (学21期)
狩野卓夫 (学27期)
笠原幹司 (学35期)

表彰報告

- P17 高知県功労者表彰 疋田隆雄 (学24期)

支部だより

- P18 京都仁泉会 秋の講演会 報告 北岡治子 (学28期)
P20 浪速区、中央区(東、南)、天王寺区、西区 合同親睦会 久保田泰弘 (学36期)
長野文昭 (学32期)
佐久間 航 (学49期)
熊野宏二 (学39期)
井上彰子 (学44期)
P22 2025(令和7)年度 淀川区支部会開催
P23 令和7年度 仁泉会阿倍野支部総会開催報告

クラス会だより

- P25 大阪医科薬科大学 昭和55年卒業 学29期(庚申仁久会)同窓会開催の報告 森松伸一 (学29期)
P26 「47同窓会」2025. 11. 2 古林光一 (学21期)
P28 高原 健君(学48期)教授就任を祝う会 開催報告 神吉佐智子 (学48期)
P30 2025年11月15日 田中教授、塗教授就任祝賀会・学52期同窓会開催のご報告 宮村昌利 (学52期)

仁泉ひろば

- P32 電子処方箋の発行に必須なHPKIに関する ホームページ記事がGoogle検索3位、Yahoo検索4位を達成しました 上杉康夫 (学34期)
P33 2025(令和7)年度 大阪医科薬科大学ヨット部OB総会 石崎英介 (学45期)
P34 大阪医科薬科大学 硬式庭球部OB・OG会総会・祝賀会報告 宮村昌利 (学52期)
P36 令和7年度 大阪医科薬科大学バレーボール部OBOG会六友会 理事会、総会、懇親会のご報告 綾仁悠介 (学60期)
P38 掌編小説「西暦2073年の我が母校」 福間勇太郎 (学72期)

開業情報

- P40 開業しました！ 川西洋平 (学54期)
川西恵美子 (学54期)
藤森 靖 (学46期)
高橋優子 (学50期)
今西将史 (学51期)
P42 開業しました！
開業しました！
開業しました！
P43 まんが第77回 ぼん太-1.0 (学31期)

本部だより

- P44 医師国家試験対策事業報告 理事会開催報告
P45 2025年度学園祭が開催されました
P46 会員計報
P47 編集後記

表紙写真：内宮神馬 草新号
皇室から伊勢神宮へ贈られる神馬(しんめ)です。出会うことが少なく、会えることは運が良いとのこと。10月の医師会旅行で出会いました。とっても目が可愛らしく、つぶらな瞳で見つめてくれました。 ひろし

新年のご挨拶

大阪医科薬科大学仁泉会 理事長 上野 豊 (学 27 期)

新年あけましておめでとうございます。昨年5月の総会において理事長を拝命してから半年が経過いたしました。この間、会員の先生方から温かいご支援を賜りましたこと、まづもって深く御礼申し上げます。



さて、昨年は国内の政治情勢にも大きな変化があり、社会全体の方向性が改めて問われた一年でした。新たな体制のもと、本年は社会保障や財政、教育、そして医療の在り方が、これまで以上に問われることが予想されます。そうした社会の流れの中で、私たち医療に携わる者もまた、現実を見つめながら次の歩みを考える時期に来ていると感じております。

社会保障費の見直しや財政の健全化が議論されることは理解いたしますが、その際には国全体の歳出にも目を向けながら、優先順位を丁寧に考え、医療のように命を支える領域が必要以上に影響を受けることのないよう願っております。診療報酬の改定、人件費の高騰、医療材料費の価格上昇による医療機関の経営悪化、人員不足、医師の偏在、救急・地域医療の負担など、現場では課題も多く、効率化だけでは語れない現実があります。働き方改革も進む中で、医療の質を守りながら、医療者の生活や健康をどう支えていくかが問われております。

母校においては、植木 實相談役、佐野浩一理事長・学長を中心に、新病院棟の整備や救急体制の強化が進み、医学・薬学・看護学が連携する教育体制が充実しています。創立100周年を見据え、次世代の医療人を育てる環境が大きく発展しつつあることは、卒業生として大きな誇りです。

仁泉会では、奨学金などの学生支援、学会助成金事業、支部・クラス会の開催支援、会報の発行など、母校と会員をつなぐ活動を続けております。これらの事業は会員の皆様のご協力と会費によって支えられており、改めて心より感謝申し上げます。本年も引き続きお力添えをいただければ幸いです。



新年のご挨拶

学校法人大阪医科薬科大学 理事長
大阪医科薬科大学 学長 佐野浩一

雪下出麦の頃、明けましておめでとうございます。

仁泉会の皆様におかれましては新年を迎えられましたことお慶び申し上げますとともに、旧年中に賜りましたご厚誼に心より御礼申し上げます。

さて、昨年10月に日本初の女性総理大臣が誕生し、日本社会の変化の大きな兆しを感じた年でありました。また、医療界においては、令和6年の診療報酬改定の負の影響が大きく現れ経営が芳しくない医療機関が多数みられたことから、本年の改定に期待したいところです。そのような状況下でしたが、平成28年の中央手術棟に始まった母校の大学病院の総建替え事業のうち、診療部分が完成し、昨年7月から順調に稼働しております。バイオフィリアとスマート病院をコンセプトにした新本館は診療におけるペーパーレス化を実現し、更に、巡回ロボットによる警備、倉敷の大原美術館から直接提供されるデジタル絵画を展示するなどDXを実現しつつ患者さんにとって温かみのある病院を目指しております。

また、国土強靱化政策に基づき、学生や教職員の生命を守るための本部キャンパスの耐震化の一環として、かつて、第一病理学教室と法医学教室が入っていた研究2号館と実験動物センターを移設するために多くの仁泉会員が親しんだ学生会館と職員会館の跡地に第1研究館を新築しました。



第1研究館にはAutopsy Imaging (AI)を行うための設備と2基の解剖台を備えた死因究明等推進基本法に

基づく法医学施設と病態モデル先端研究施設を配備し、研究基盤を強化しました。本年は、これらの施設を利用して本学の研究が更に発展するものと期待しております。

私立学校法の改正により、昨年には寄附行為を変更し、理事数と評議員数が削減されると同時に常勤監事を置き、ガバナンスが強化されました。また、学校法人会計基準の変更によって計算書の項目が追加され、本年度のみの一過性の支出を計上することになり、各学校法人は困惑しておりますが、実質的な資金収支に影響はなく財務上は安定しております。

2040年以降の厳しい労働力不足への対応として、医療、教育、研究、更にはそれらを支える事務など広範に渡るDXが進められております。先に述べましたDXの進んだ病院本館における対応と同時に教育研究におけるDXを進めつつあります。

例えば、教育研究において、自己研磨に必要な各種講習はオンデマンド化され、その受講後のチェックもオンライン上で行い容易に自己管理できるシステムや各種申請もオンラインで行うことができ、教育研究において教員方のみならず、事務方の負担が減っています。また、学生さんもカリキュラム時間割や自己の出席状況・成績などがオンラインで確認できるようになりました。これらの新しいシステムの導入によるDXには多大な費用を要し、導入後も保守管理やサイバーセキュリティにかかる負担が増大しています。

そこで、ふるさと納税による大学への寄附を求める募金活動を開始いたしました。既に数名の仁泉会員より多額のご寄附を頂戴し、心より感謝いたしますとともに、仁泉会の皆様には改めて是非ご一考賜たくお願い申し上げます。

前回の丙午は1966年で、人口ピラミッドに大きなディップを加えましたが人口は1億人を超え、ビートルズが来日し、「銭形平次」や「笑点」、「ウルトラQ」とそれに続く「ウルトラマン」の放送が開始され、「ポッキー」、「カローラ」、「ターンテーブル式電子レンジ」など、今の生活につながる商品が発売されるなど戦後復興の高度経済成長を象徴する年でした。

今回の丙午は人口ピラミッドへの影響はないとされております。丙午は情熱とエネルギーにあふれた行動によって、新しいことを始めるのに適した年ともいわれており、教員・職員・学生そして卒業生がコロナ禍後の成長を象徴する取組みにいとむことによって、超少子・超高齢化社会の中でも母校が益々発展することを祈念して新年のご挨拶いたします。

新年のご挨拶

東日本支部 支部長
中嶋秀人 (学37期)

仁泉会の皆様、新年あけましておめでとうございます。会員の先生方には、つつがなく新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

まず2025年を振り返りますと、大阪・関西万博が夢洲にて6か月にわたり開催され、未来社会を描き出す壮大な舞台を私たちは目の当たりにしました。さらに、わが国初となる女性首相・高市早苗氏の誕生という歴史的瞬間もあり、日本のリーダーシップの新たな節目となりました。夏には記録的猛暑が続き、医療・福祉現場における負荷は大きいものとなりました。また、阪神タイガースがセ・リーグを圧倒的に制しながらも日本シリーズでは惜敗するなど、変化と挑戦に満ちた一年であったと感じております。

私個人として2025年で最も心を打たれたのは、ドジャースの山本由伸投手がワールドシリーズで示した献身的な姿勢です。彼は本舞台で自身の能力を遺憾なく発揮しただけでなく、仲間のため、そして祖国の誇りを胸に投げ続けました。シリーズ3勝に加え、最終決戦ではほぼ休息なしの登板ながら無失点に抑えて優勝を決定づけました。この姿勢は「自分のため」ではなく「チームのため」に全力を尽くすという、日本人なら誰もが胸を打たれる精神そのものでした。極度の緊張と高い負荷の中でも自身を整え、“フロー（集中状態）”へと迅速に入り、それを維持した点は特に印象的でした。大学病院で日々、診療・多職種連携・研究・教育に携わる私にとっても、山本投手の姿勢は「個の力」と「チーム力」をいかに高めるかという重要な問いを改めて突きつけてくれたように思います。

東日本支部では、昨年6月7日に東京国際フォーラム東天紅にて令和7年度東日本支部総会を開催いたしました。内容については副支部長の井利雅信先生より大阪医科薬科大学仁泉会ニュース第56巻第5号にて報告されておりますが、6月に就任されたばかりの上野 豊仁泉会理事長（学27期）にもご参加いただき、仁泉会の今後の役割について貴重なお話を伺うとともに、和やかで活発な意見交換の場となりました。

昨年は医師の働き方改革が本格実施2年目を迎え、各医療機関における取り組みが徐々に定着してきました。勤務時間管理システムの導入やタスクシフティングの推

進により、医師の時間外労働は減少傾向にあります。一方で、地域医療の維持や救急医療体制の確保といった観点からは、新たな課題も浮かび上がっています。私の教室でも、若手医師のワークライフバランスを尊重しつつ専門医教育の質を保つため、オンラインカンファレンスやAI診断支援ツールを積極的に導入し、効率的な教育システム構築に取り組んでいます。

2026年は医療DXがさらに進展する年になると予想されます。電子カルテの標準化やPHR（パーソナルヘルスレコード）の普及、遠隔診療の拡大など、デジタル技術を活用した新しい医療の形が本格的に実現していくことでしょう。また、いわゆる2025年問題として指摘されてきた超高齢社会への対応もより一層急務となります。認知症患者の増加、在宅医療ニーズの拡大、医療・介護連携の強化など、私たち医療従事者にはますます多様な役割が求められています。東日本支部としても会員間の情報共有や連携を一段と深め、地域医療の発展に貢献してまいりたいと考えております。

今年6月6日（土）に、昨年と同じ東京国際フォーラム東天紅にて令和8年度東日本支部総会を開催する予定です。改めてご案内申し上げますが、多くの先生方にご参加いただき、医療の未来について活発な議論が行われることを心より期待しております。引き続き、副支部長の井利雅信先生とともに仁泉会東日本支部の発展に尽力してまいりますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新春のご挨拶

長野県支部 支部長
高島俊夫 (学21期)

仁泉会の皆様、明けましておめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。

母校である大阪医科薬科大学の所在地の大阪府高槻市から遠く離れた長野県の仁泉会会員数は10数名と決して多くはありません。

また長野県は、皆様御存知のように日本でも有数な広大な面積を有する山岳県であり交通の便も良くありませんので仁泉会長長野県支部として全員が気軽に集まることは非常に困難な状況ですが、医師会活動には積極的

に参加されています。学29期の野邑敏夫先生が長野県医師会副会長として活躍されていますし、学14期の宮澤 健先生が長野県医師会裁定委員長を、学21期の高島俊夫が長野県医師会参与、松本市医師会顧問を務める等、仁泉会会員の活躍が目立ちます。

話は変わりますが、昨年10月12日長野県小児科医会の主催「第21回日本小児科医会 生涯研修セミナー in 信州」が全国の多数の小児科医が松本市に参集して盛大に開催されました。

前日に開かれた懇親会にも学28期大阪医科薬科大学名誉教授 玉井 浩先生、学28期日本小児科医会理事 鈴木敏弘先生、学30期愛知県小児科医会会長 江口秀史先生、学31期兵庫県小児科医会会長 辰巳和人先生と、私学21期の高島俊夫と仁泉会会員が5名参加し、他学を圧倒して、仁泉会会員の団結の強さを示していました。

末筆になりましたが、仁泉会の皆様の益々の御活躍、ご健康をお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

新春のご挨拶

静岡県支部 支部長
吹田浩之（学 36 期）

明けましておめでとうございます。驚愕の暑さから一転、肌寒い冬が速やかに訪れて、体が音を上げるような気候が続くこの頃です。さらにインフルエンザも新型コロナに負けじと勢いをましています。

昨年冬、次男がなんとか関西医科大学を卒業して医師国家試験に臨みました。かなり頑張って勉強をしていたようですが、一般・臨床問題の点数が77点で不合格になってしまいました。本当に驚きました。現在の医師国家試験の合格ラインは60点ではなく、必修問題は80%以上の正答率、一般・臨床問題は70%以上の正答率ですが相対基準で毎年変動して去年は78%でした。禁忌肢選択は3問以下に抑える、です。すごいですよね、この基準では私は医師になれなかったのではないかと感じてしまいます。私が受けた医師国家試験はメジャー四科でマイナーは指定二科のみでした。今は全科でこの点数をたたき出さないといけません。我々の学生生活を彩った麻雀やパチンコをしている暇はありません。

この制度では確かに試験に強い、記憶力に優れた医

師が生まれると思います。しかし、昔から問われてきたように「良医とはなんぞや」と考えた時に、患者さんの言葉に耳を傾け、優しく寄り添える良医が育つのだろうかと疑問を持ちます。内科医の私からすると、医療の学びは患者さんの言葉であり、毎日の診療に真摯に向かい合うことにあると思います。昨今は研修制度も受けずに美容整形に就職する医師やユーチューバーになる医師がいます。その対側に後継者がいないために閉院する地域に愛されている町医者の方がおられることも聞きます。私見ですが、卒業生の子弟が少しだけ優遇される推薦制度があってもよいのではないかと思います。それが我が大阪医大をはじめ私立医大の繁栄にはつながるのではと思考しました。

新年早々、愚痴ばい話になり申し訳ございません。今年も、仁泉会会員の先生皆様のご健勝で素晴らしい一年をお過ごしになり、我が大阪医科薬科大学がますます繁栄することを祈念します。

人生塞翁が馬

三重県支部 支部長
後藤亮太郎（学 45 期）

仁泉会の皆さまあけましておめでとうございます。令和6年に岐阜・愛知・三重3県合同の新三水会がありました。岐阜県主催で岐阜大学外科で教授になられた松橋先生と同じ弓道部で親友の操先生にも会えるので久しぶりに仁泉会関連の会合に出席したところ、三重県からの出席者は前支部長の子日先生とわたしの2人だけだったこともあったのか、ご挨拶で「令和7年より支部長を後藤君にやってもらいます」と青天の霹靂のご指名で三重県支部長を引き受けることになりました。

わたしは三重高田高校卒業後すぐ医大近くの下宿先に越してきたのですが、お隣が弓道部の先輩で入学式前からご飯やドライブに連れて行っていただき、入学後もラグビー部やバレー部・卓球部の友人とホームシックにかかる暇もなく有意義な学生生活が送れました。卒後は三重大眼科に入局したのですが、関連施設先では三重仁泉会先輩にお声がけと御指導を受けました。開業後離婚することで勤務先を探していたら何かの縁で御尊父が医大卒業の現職場中部眼科に勤務することができました。思い返すと色々お世話になっているので、今後は母校の発展に少しでもお役に立てればと思っています。

趣味は40過ぎからはじめた馬場乗馬で休みの日は馬のお世話です。地元神社で流鏑馬のお手伝いもしているのですが流鏑馬は小笠原流で大学弓道部の家元にもあたり当時の師範の思い出話や弓道馬術談義ができることは幸せです。落馬による大腿骨骨折で1ヶ月ほど入院生活を余儀なくされることもありましたが、掛けていた保険が開業医時代そのままであったので給料目減りより保険金が多く、開業時代なら休んだら患者減るだろうという心配事もなく気楽な入院生活を送れたことはまさしく塞翁が馬でした。現在、高田中高馬術部と同じ施設・指導者で馬術訓練を受けています。令和8年からは三重県の地元枠で高田高校生が入学して夏休みには現医療施設に見学に来るというのでどんな子なのか楽しみです。今年はいま年、さらなる大阪医大の飛躍を祈願いたします。

新春の御挨拶

京都仁泉会 会長
寺村和久（学 37 期）

新年あけましておめでとうございます。さて、昨年、前会長の河野龍而先生より引継ぎ、京都仁泉会会長の大役を仰せつかりました。当然私だけでは京都仁泉会を切り盛りすることは不可能で、北岡治子先生、塩見聡史先生に、副会長をお願いしたところ、ご多忙なお二人の先生から快諾を頂戴致しました。

私自身、仁泉会本部の監事もさせて頂いておりますが、どの仁泉会支部も、会員の人数、会費収入の話で悩まれておられます。京都も同様です。また、学術講演会の費用も企業の協賛が難しくなり、会費のみで対応すると、会員の増員が必要になります。大学在学中から仁泉会会員になっていただくようにしておられますが、支部の会合にはあまり出席されず、今後、魅力を感じて支部会に参加できるような、前向きな対応が必要です。他の支部での工夫があるようでしたら、仁泉会ニュースにあげていただくと助かります。

京都仁泉会の伝統あるレクリエーションは、毎年8月下旬の日曜日に行く、「音楽の夕べ」の企画です。昨年8月31日日曜に、会員の先生方とごご家族、計31名の方々にご参加頂き、「チェロとハーブのしらべ」を聴かせて頂きました。もう数十年続いている「音楽の夕べ」ですが、出演いただくミュージシャンの選定など、

これまで手助け頂いた富岡 曄先生、そして現在ご苦労をおかけしている森本博子先生のお助けがないと続かない企画です。本当にありがたく思っております。

河野龍而前会長が2024年の仁泉会ニュースの新年の挨拶で、仁泉会の目的を書かれておられます。①大阪医科薬科大学と附属病院における医学の教育・研究及び学術交流の振興を助成すること ②会員相互の親睦を図り、もって医学の教育・研究及び学術の発展に寄与すること、とあります。京都支部総会はもとより、学術講演会・音楽の夕べ、いずれも開催を死守するため、若い会員の参加を増やすべく、工夫が必要だと思っております。

本年が会員の皆様、ご家族にとって素晴らしい一年となるよう祈念いたします。

新年のご挨拶

仁泉会大阪府支部連合会 会長
霜野良一（学 28 期）

新年明けましておめでとうございます。昨年5月の仁泉会大阪府支部連合会の支部長会後の臨時理事会にて3期目の会長を拝命しました。最近は副会長および各理事の先生方に助けてもらいながら職務を行っています。副会長の福本敏子先生（学24期）のご尽力で始めた産業医講習会も昨年2月・8月の2回開催されそれぞれ約150名の出席があり、盛況でした。

また、理事の先生方の頑張りで会費納入率のアップ、支部会開催、メーリングリストの作成なども徐々にではありますが、成果を上げています。

政治の世界では高市早苗氏が初の女性首相となり、公明党が連立から離脱し、新たに維新の会と連立を組み上手くいくのかなと思っていましたが、昨年10月の時点では支持率が70%あり、トランプ大統領との会見も順調に終えられたことから期待も持てるのではないかとっています。

私事ですが、一昨年7月霜野医院を閉院し、昨年8月診療所を新築して息子を院長として、私は週3日半日の診療を行っています。電子カルテとなり悪戦苦闘しましたが、キーボードが速く打てず時間がかかってしまいます。

1970年の大阪万博の時は、私は高校生で、動く歩道・奇抜で華やかなパビリオン・コンパニオンの女性や

外国人を見て感動しました。今回の万博には7回行きましたが、印象に残っているのは、水上ショウ・ドローンショウ・ブルーインパルスの航空ショウ、パピリオンではヨルダンの赤い砂漠の砂・中国・フランス館などです。

最後になりますが、今年が会員の先生方にとって良き年となることを祈願して、新年のご挨拶とさせていただきます。今年も何卒宜しく願い申し上げます。

2026年 新春のご挨拶

北区支部 支部長

太田祥彦（学 38 期）

新春のご挨拶をさせていただきます。昨年から大阪市北区支部長となり、総会などにも参加させていただいています。よろしく願いいたします。関西万国博覧会も華々しく終了し、新しく高市早苗内閣もスタートして何か世の中が明るくなった兆しを見せてくれるような、何か期待が持てる新年が始まるような気がしております。その中で同窓会関係で気になることとすれば、以前出席させていただいた総会で理事長が強くおっしゃられていた同窓会費問題があります。その納付率の低さに驚きを隠しえませんでした。実際には当北区支部でも支部総会の案内を送らせていただいた折に同窓会を退会したいというご意見もいただき驚いたことを思い出しました。実際に卒業して医師として活動するにあたり、同窓会がどのような関与をしていただくのかということについてはなかなかピンと来ないとは思いますが。私にもピンと来ておりません。しかしながら会計を見ていただいたらわかるのですが、実は同窓会は学生へのサポートもしております。西医大への協力金支出、国試対策への費用提供なども行われています。これらを今後も維持するには当然同窓会が成り立っていないとできません。していただいたことに恩義を感じお返しするというのが同窓会活動の一つと考えます。これからはどんどん学生へのサポートを厚くして、より充実した学生生活を送っていただき、それを大変よかったですと実感した方は卒業後も協力をするというような流れになればいいのではと考えます。来年には日本医学会総会が大阪で予定されており、その準備がどんどん現実的に進められていくと思います。今年も皆様にとってよい年になるようにお祈りしております。

新年を寿ぎて

阿倍野支部 支部長

福本敏子（学 24 期）

仁泉会会員の皆様あけましておめでとうございます。皆様には恙なく新年をお迎えのことと存じ上げます。昨年は世界情勢も不穏で、政治、経済においても不安定な年でしたが、新年は初日の出のように、まぶしい光に満ちた年になることを念じています。

昨年は医療界全体に明るい話題は少ない年でしたが、今年こそは春の健康保険の改正に始まり良いニュースが聞かれることを願っています。

阿倍野支部は会員一同仲良く、家族のように交流していることが自慢の支部です。

今年も会員一同より一層、病診連携、病病連携を心がけてまいります。

会員の皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

謹賀新年 一馬のことわざ

港区支部 支部長

奥村隆司（学 31 期）

新年明けましておめでとうございます。先生方に於かれましては健やかに新しい年をお迎えした事をお慶び申し上げます。今年も午(馬)年です。馬は古来より農耕、輸送、娯楽、戦いなどに欠かせない存在として人々に生活の中で共存しています。それ故に馬にまつわることわざや慣用語は沢山あります。その中で人生の教訓となるのをいくつかを選んで新年のご挨拶とさせていただきます。

「馬には乗ってみよ、人には添うてみよ」。実際に意見交換や行動を共にすることで理解が膨らみ真実が見えてきます。何事も自分で直接体験することが大切です。結果失望することもあります。その逆に望外の喜びや生涯の友人に出会うこともあります。「牛も千里、馬も千里」。歩調が遅くても早くても目標に向かって続けていけば両者いずれも到着します。他人に捉われず自分の力を信じて頑張ればきっと夢は叶います。勇気づけられることわざです。「馬の耳に念仏」。言い聞かせても理解しようのない相手にどんないい話をしても意味がない例え

ですが、これは相手が悪いというよりも、相手の理解度や気持ちを考えずに話しても伝わらないという戒めを込めています。日常臨床において患者さんの気持ちを理解して言葉を選ぶことが大切だと思います。「老いたる馬は道を忘れず」。人生経験を積んだものは道理をよく理解しているので判断に間違いはないということです。私は今年古希を迎えますが、誤った判断も多くまだまだ人生修行が足りないのかなあと考えています。

最後に「人間万事塞翁が馬」。私の座右の銘のひとつにもしています。長い人生の中で辛いこと、悲しいこと、楽しいこと、嬉しいことなど色々な出来事がありますが、何が幸せで何が不幸かは直ぐに決まるものではありません。気持ちの持ち方や考え方で裏表は変わることもあります。人生をより豊かに生きるために柔軟な気持ちと考えを持つことが大切だと思います。

馬は神様の使いとされ神社では「絵馬」に願いを書けば馬が神様に届けてくれるという言い伝えがあります。午(馬)年は前向きな行動力・成功・繁栄を象徴しています。その力強い気運を味方にして会員の先生方にとって素晴らしい年であることをお祈りします。

蛇足ですが、今年も60年ぶりの丙午です。私の知っている60歳の女性は皆お淑やかで優しいですし、旦那様もお元気で立派にご活躍しておられます。

新春のご挨拶 2026年度

浪速支部 支部長

久保田泰弘（学 36 期）

現在、大阪府連の理事もさせて頂いていますが、まだまだ府連の認知度は低いと思っています。昨年度より福本理事の提案で産業医講習会も府連として開始しました。また、昨年11月15日には、浪速区、中央区、天王寺区、西区と合同で長野文昭支部長、佐久間 航支部長と共に親睦会をなんばパークス “うおまん” で開催しました。

最近、美容外科の医師も増え、医師会の入会率も低下傾向にあります。

私は浪速区医師会長を拝命して2年目になりますが、低迷する診療報酬において、医師会の影響力が弱まっているように感じます。高市政権になり少しは期待していますが。

医師会の存在意義が弱まると当然入会率も悪くなります。医師会員は、多くの地域医療に貢献する事業に参

加することに誇りを持っているとは思いますが、肝心の医院収益自体に不安があれば、精神的余裕がなくなります。

そこで、浪速区医師会として新たに2つのことを始めました。

一つは、当地区の医師会員全員を繋ぐネットワークを構築することです。厚労省の推進する医療DXに、追従できない医療機関は相当数あります。我々は電子カルテ導入していない医療機関もスマホのみで、全国医療情報プラットフォームに対応させるだけでなく、医師会員同士、患者の紹介、そしてその後の情報共有連携をチャット機能でできるシステムを構築するために昨年10月末よりクラウドファンディングで資金調達しました。

クラウドファンディングはreadyforさんをお願いしました。かつて三島救命センターが依頼したことがあったので。

いざ実際にクラファンに挑戦するととなると、最初は週に2、3回webミーティングがありました。

理事者への啓蒙、その次に各会員に理事者が説明に行き、さらに患者や友人に、クラファン用名刺やパンフを配り、ネット上でも毎週各委員の広報を載せたり等、相当大変でした。

その甲斐もあり開始20日目で目標の1000万に到達しました。

そして もう一つは、「地域医療の明日を考える会」という医政を会員皆で考える会を立ち上げました。第1回は参議院の釜薙 敏先生、第2回は高市早苗総理、第3回は横山英幸大阪市長を招き、それぞれ医療問題に対する勉強会を開催しました。

2、3回目では、大阪市内の多くの地区会長、役員を招き大盛況でした。

勿論、地区の若手の先生方にも来て頂きました。今後の地域医療を前途有望なものにするためには、我々も積極的に様々な議員や厚労省、財務省関係の方々と話し合い、我々の意見を彼らに説明していくべきだと考えています。

会員に少しでも有益なシステムの導入、会員の興味のあるゲストを呼んでの講演会を今後も続けていく所存です。

黄花晩節 「恩返し医療」

生野区支部 支部長
村田高穂（学 22 期）

仁泉会会員の皆様 新年おめでとうございます
新しい年が 皆様にとりまして良い年でありますことを
祈念申し上げます

昨年2025年（令和7年）は、「昭和百年」に当たる。
昭和24年生まれの私は昨年76歳、数え年ルールでの
「喜寿」を迎えた。この「昭和百年」ということは、
昭和に生まれ喜寿の半分以上を昭和に生きた私に「愛
おしい時の流れ」を想い起こさせる。何故ならば、私の「医
者マラソン」は昭和48年に始まり、昭和の後半と昭和
に続く50年間を「あるがままに」駆け抜けた時間であっ
たからである。

そして、今は以前のように走れなくなったけれど、「今
生きている」という喜びを噛み締めながら「医者マラソン」
を歩き続けている。

竜馬の生きた幕末、人の一生たかだか五十年と言わ
れた時代。

「一旦志を抱けば これに向い事が進捗する手段の
みを取り いやしくも弱気を発してはいけない 例えその
目的が成就できなくともその道中で死ぬべきだ 生死は
自然現象だからこれを計算に入れてはいけない 志士
は自分の死骸が溝の淵に捨てられ自分の首が道端に転
がっている情景をいつも覚悟せよ」（司馬遼太郎「竜
馬がゆく」より）

竜馬は幕末にあり日本の将来を憂い、強固な志によっ
て自身の運命に抗い、濃厚な人生を全うした。幕末に
は多くの志士たちが竜馬と同様の熱き思いを持ち、彼ら
の屍を礎として維新という歴史が築かれたのである。そ
して、竜馬は新しいニッポンを見ることなく33歳で逝った。

「黄花晩節」は、黄花が長寿の意味。晩節が気高
い信念を持ち続けること。また黄花は菊の花の別名であ
り、菊が寒い日の霜にも負けず花を咲かせることから、
年老いても健康なこと」に例えられる。

私には竜馬が抱いたような強固な志があったわけでは
ないが、幸いにもほどほど健康に喜寿まで生きさせてい
ただいた。今「ひとりの医者として何がきるだろう？」と
自問する。そして、これまでのようには走れなくなったが、

「ひとりの医者として」マラソンのゴールまで歩き続け、こ
れまでにいただいたたくさんの一期一会への「恩返し
の医療」を行うことが自身の晩節の使命と悟る。

「恩返し医療」とは、脳神経外科と脳卒中診療の
治療を終えた患者さんが、「残された第二の人生をどう
生きるか？」と一緒に考える医療であり、そのモットーは「苦
痛を和らげ、安楽を共有すること」と考える。黄花晩節
の決意である。（2025年11月 記）

新春のご挨拶

東住吉・平野支部 支部長
長谷川利雄（学 32 期）

謹んで新春のお慶びを申し上げます。会員の皆様にお
かれましては、晴れやかな新年を健やかにお迎えのこと
と存じます。日頃より、東住吉・平野支部の活動に対
しまして温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し
上げます。

昨今、医療を取り巻く環境はますます複雑化し、私た
ち医療従事者に求められる役割も多様化しております。
高齢化の進行、地域包括ケアの推進、医療と介護の
連携、さらにはAIやデジタル技術の導入など、日々の診
療の中でも変化を実感されている方は多いのではないで
しょうか。こうした時代のうねりの中にあっても、私たち同
窓生がそれぞれの現場で誠実に職責を果たし、地域の
健康を支えていることは、支部長として大変心強く、誇
らしく感じております。

本支部では、同窓生同士のつながりを大切にし、世
代を超えた交流の場を育んでまいりました。特に近年は、
若手会員の参加を促す取り組みにも力を入れており、今
後の支部活動の継続と発展に向けた土台づくりを進めて
おります。医療の現場で日々多忙を極める中、同窓会
活動に参加することは容易ではないかもしれませんが、
だからこそ、同じ学び舎で育った仲間とのつながりが、
心の支えとなることもあるのではないかと感じております。
また、母校・大阪医科薬科大学は、統合後の新たな
体制のもと、教育・研究・臨床の各分野で着実な歩み
を続けております。私たち同窓生がその発展を見守り、
必要な支援を惜しまないことは、同窓会の大きな使命の
ひとつです。支部としても、母校との連携を深め、情報
の共有や人的交流を通じて、より実りある関係を築いて
まいりたいと考えております。

新年のご挨拶

高槻支部 支部長
保田 浩（学 31 期）

仁泉会の皆様、新年あけましておめでとうございます。
昨年の正月期間はインフルエンザが大流行しました。
今年は11月から小児を中心にインフルエンザが流行して
います。当院は昨年開業30周年を迎えました。当方小
児科で、30年前の出生数はおよそ120万人でしたが、
今や70万人を切っています。当然、予防接種や患者さ
んの数も激減しました。予想以上でしたので「何かでき
ないか」と思い、お母さん方に暇な診察の合間にいろ
いろ意見を聞きました。まずグーグルマップに当院が表示
されていないのと、予約システムはあるもののホームペ
ージが無いと言われました。ホームページは25年前にいち
早く作ったものの有料になった時点で無くなっていました。
それらを整備して、時代おくれの院内処方もうたい文句
に宣伝しました。また、朝よりも夜のニーズが多く、夜の
診察に力をいれました。効果があるかは今後次第です。
開業時と変わらない患者数でも利益は明らかに減少して
おり、医療業界だけ取り残されているようです。今後も
財務省は締め付けをするようで、今年も良い話題がない
ようです。

さて、仁泉会高槻支部におきましては、昨年6月にホ
テルアバステグランデ高槻にて総会と講演を執り行いま
した。佐野理事長・学長、南副学長、勝間田病院長も
来られ、大学の近況、病院新本館の概要などを説明し
ていただきました。詳細は前月号に掲載しております。

では、今年が仁泉会の皆様にとって幸多き年であり
ますようお祈り申し上げ、念頭のご挨拶とさせていただきます。

本年も、東住吉・平野支部は、会員の皆様の交流
と親睦を図るとともに、地域医療の発展に寄与できるよ
う努めてまいります。どうか引き続きのご支援とご協力を賜
りますようお願い申し上げます。

皆様にとりまして、本年が実り多き一年となりますよう、
心よりお祈り申し上げます。

なお、当支部会に入会ご希望の方は下記までご連絡
ください。

長谷川利雄
thsgw8040@icloud.com

2026年 新年のご挨拶

住吉住之江支部 支部長
濱崎憲夫（学 42 期）

謹んで新春のお慶びを申し上げます。仁泉会会員の
先生方におかれましては、輝かしい新年を健やかにお
迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年6月の支部会は、私にとって忘れがたい光
景となりました。医療経営環境が厳しいという報道が続
中にあっても、ご出席の先生方全員が、まるで特効薬を
飲まれたかのように「Positive Thinking」を全開にさ
れていました。私はその明るさに深く勇気づけられると
同時に、「この活力は一体どこから湧いてくるのだろうか」と、
改めて母校の校風の底力を感じ、誇らしく思いました。

2026年は、この「Positive Thinking」を合言葉に、
支部活動を一層活性化してまいる所存です。日頃の診
療で溜まった日々の苦労話や、最新の医療情報、そし
て武勇伝も（もちろん、他言無用で）、会員先生方とざっ
くばらんに交換できる親睦とネットワーキングの場を、従来
の支部会に限らず作っていきたいと思っております。本
年は、住吉住之江におられる全ての仁泉会会員の先生
方にご参加いただけるような、皆様が「来てよかった、
明日も頑張ろう」と、つい笑顔でおかわりをしてしまうよ
うな魅力的な企画を計画してまいります。

末筆ではございますが、本年が会員の皆様にとって、
実り多き一年となりますよう、そして、皆様の益々のご健
勝とご活躍を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさ
せていただきます。

本年も何卒よろしく願い申し上げます。



教授最終年度

大阪医科薬科大学仁泉会 学内支部長
 麻酔科学教室教授
 南 敏明 (学36期)

あけましておめでとうございます。本年もご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2002年4月に大阪医科大学麻酔科学教室教授を拝命して以来24年が経過し、2026年度が最終年度となります。2002年当時は研究ばかりで臨床ができないと言われ、教授になれば臨床ばかりで研究をしていないと言われたため、最後の集大成としてスタッフともに臨床・研究に尽力しています。特に研究は、ライフワークの「痛み」の総仕上げのつもりで行っています。この仁泉会ニュースが手元に届くころには投稿論文が受理されていることを祈るばかりです。

2026年度は新規レジデントが10名入局いたします。大阪医科薬科大学病院麻酔科・ペインクリニックの研修医・レジデント教育はハイパーです。特にレジデントには徹底的に心臓・血管麻酔、呼吸器外科麻酔、小児麻酔、産科麻酔などの麻酔症例を十分に経験してもらい、さらにペインクリニックや集中治療を経験することで、臨床麻酔に必要な基本的な手技は安全かつ確実に施行できるようになるという「鉄は熱いうちに打て」の教育を実践しています。当科がハイパーであることが知られているためか、入局者の大部分は外部の病院での研修者です。安全で臨機応変に対応できる麻酔科医育成を第一に掲げ、今後も大学病院・関連病院の手術室運営がスムーズできるようにと考えています。

あとは、阪神タイガース藤川球児監督のような後任教授の育成だけが課題です。



新年のご挨拶を申し上げます —R7年度仁泉会 和歌山県支部総会の報告—

和歌山県支部 支部長
 湯川裕史 (学29期)

新年あけましておめでとうございます。

本年も昨年のご挨拶と同じような書き出しになりますが、昨年(R7)の夏も日本全国で記録的な猛暑が続きました。会員の皆様におかれましてはつつがなく夏を乗り切られて、お元気で新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

本年も新年のご挨拶とともに、仁泉会和歌山県支部総会のご報告を申し上げます。

R7年度仁泉会和歌山県支部総会は、令和7年11月8日(土)にホテルアパローム紀の国にて開催されました。今回は18名の仁泉会会員の出席を頂き、大阪薬大和歌山県支部「紀薬会」から岡崎弘記支部長はじめ8名の方にも出席をいただきました。

総会ではまず湯川より、仁泉会ニュースの上野 豊新理事長のお言葉にありました仁泉会の役割について報告しました。第一には卒業生間の結束の場、親睦の場、情報交換の場となること、とおっしゃっています。そのためには各支部の活性化が重要であり、我々もその役割を果たすべく、活動をさらに拡大していきたいと挨拶申し上げます。

議事ではまず村上浩一先生(学32期)より庶務報告があり、一年間の活動と会員の現状などの報告を頂きました。そして来年度の総会は令和8年11月14日(土)に決定されました。会計報告は塩崎 憲先生(学42期)より、会計監査は吉田隆昭先生(学36期)より頂きました。

特別講演は、昨年に和歌山医大放射線科教授を退官された、岸和田徳洲会病院画像診断センター長の園村哲郎先生より、「急性腹症の画像診断」のテーマでお話を伺いました。主にCT所見からの読影と診断はまさに神業のごとく、提示症例ごとに感嘆の声がフロアから上がりました。相変わらずのアクティブなお仕事ぶりに感服しました。

懇親会の会場に席を移しての集合写真を添えます。少々小さいですが、和歌山で頑張っている面々をご覧ください。

いよいよ懇親会では湯川より開会の挨拶として、この会をぜひとも親睦と情報交換の場としていただければと述

べまして、田伏俊作先生(学20期)の乾杯のご発声で開宴となりました。恒例の各自の自己紹介では、ご自分のプロフィールに続いて、それぞれのこの一年のご自分の出来事や興味・関心事項、時事情報などの報告で、宴席より笑い声あり、感嘆の声ありで大いに盛り上がりました。紀薬会の方々からも自己紹介を頂きました。談笑は尽きませんが、副支部長松谷良清先生(学32期)の中締めの挨拶で懇親会は閉会となりました。

本年も仁泉会和歌山県支部の発展を祈りつつ、会場を後にしました。

仁泉会会員の皆様、本年も変わりませず健やかにお過ごしください。

ご出席の先生方：(敬称略)

田伏俊作(学20期)、西岡昭規(学23期)、橋本忠明(学25期)、湯川裕史(学29期)、柳川百世(学31期)、松谷良清(学32期)、村上浩一(学32期)、園村哲郎(学35期)、吉田隆昭(学36期)、藤田定則(学38期)、丸山晋右(学41期)、木下博之(学41期)、塩崎 憲(学42期)、家田淳司(学53期)、山本直之(学53期)、松浦正徒(学53期)、平松政高(学55期)、仲河恒志(学62期)

紀薬会：(敬称略)

岡崎弘記、抜井栄二、森本康弘、北山真敏、加藤貴大、辻昌伍、高木文徳、土井彩友美



写真(敬称略)
 後列左より 家田、山本、木下、仲河、(紀薬会)、平松、(紀薬会)、(紀薬会)、(紀薬会)、(紀薬会)
 中列左より 丸山、松浦、吉田、藤田、柳川、松谷、村上、(紀薬会)、(紀薬会)、塩崎
 前列左より (紀薬会)、湯川、園村、田伏、西岡、橋本



新春のご挨拶

岡山県支部 支部長
小出尚志（学 28 期）

新春の候、仁泉会の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのことと存じます。

岡山県支部を代表して新年のご挨拶を申し上げます。

今年は丙午（ひのえうま）の年です。60年に一度の丙午は大きな飛躍のチャンスをもたらす年とされます。至誠仁術の建学の精神を繋いで創立百周年に向けスーパースマートホスピタルを推進する大学病院として高度で先進的な医療を提供しながら未来への発展の歩みを進めているわが母校の姿を見ると同窓生の気分は高揚します。今年がさらなる母校の飛躍的な発展の年となることを祈念しております。

さて、岡山県支部の近況報告です。新型コロナウイルス感染症で長く活動停止を余儀なくされておりましたが、昨年は足掛け6年ぶりの支部例会の再開に漕ぎつけました。集まった会員は久しぶりの再会の喜びと交流のありがたさを改めて実感し、今後は途切れることない活動の継続を確認しました。活動停止の間には若い先生方の県内外への移動も多く、その連絡先の確認にあたってご尽力を賜りました仁泉会本部事務局の皆様にあらためて御礼を申し上げます。

支部の朗報もございました。2月に学部54期卒の小村和正先生が川崎医科大学泌尿器科学教室の主任教授にご就任されました。ご着任早々から精力的に活動されておられます。さらに学部35期卒の梅垣英次先生は4月に川崎医科大学消化器内科学教室から同大学総合医療センターへ移られた後も引き続き特任部長（特任教授）として岡山の地でご活躍を続けておられます。お二人の同窓生のご活躍は仁泉会岡山県支部会員にとって誠に心強く大きな誇りであり、今後の支部活動の活性化にも大きく寄与していただけると期待しております。

終わりになりますが、新年度は岡山県支部では会員相互の交流や地域医療に係る情報交換にとどまらず、さらに若手会員の参加促進と開かれた支部づくりを新たなテーマに掲げて活動を積み重ねて参る決意をもって新春のご挨拶とさせていただきます。

年頭挨拶

香川県支部 支部長
大谷昌裕（学 40 期）

新年あけましておめでとうございます。先生方に於かれましては健やかに新しい年をお迎えされた事をお慶び申し上げます。また、旧年中は皆さまに何かとお世話になり感謝申し上げます。

昨年は Super Smart Hospital 新病院本館の完成と運用開始に喜んだ1年でした。満床経営・断らない医療・黒字経営維持という素晴らしい看板を掲げる本学に元気と勇気を頂き1年を過ごさせて頂きました。本学の発展した姿を拝見させて頂くと、前理事長・相談役である植木 實先生、理事長兼学長である佐野浩一先生以下大学関係者の皆様には感謝しかありません。

一方で、本稿を執筆中の現在は、医療業界の不況のニュースが連日報じられています。私には目先の医療機関の不況という問題以上に少子化という10-20年先の問題こそ重要な課題と考えています。出生数の激減により20年後に20歳を迎える人の数が現在より半減するという事実には危機感を感じています。

仁泉会香川県支部は毎年3月に支部総会を開催し会員間の親睦を図るよう努めています。昨年の支部会においては、初めて本部から安藤嗣彦仁泉会理事長お招きしました。さらに大阪医科薬科大学薬学部香川県支部長である木村英明先生と前支部長である喜多克幸先生をお招きしました。支部仁泉会会員の50%の先生方にご参加頂き盛会を催すことができました。

支部長に就任させて頂き2年が経過し、その間仁泉会総会に参加させて頂き仁泉会における現状と課題について学ぶ良い機会になりました。母校を大切に思う気持ちやOB会である仁泉会への愛着もより一層高まることになりました。一方で、各支部会で支部総会に参加者が十分集まらない現状や仁泉会総会においても常連のように参加する会員の高齢化と参加者数の決して多くないという事実を知ることになりました。時代の流れ、多様性を認めなくてはいけない時代であることは理解しつつも、このままで良いのだろうか、と思うようになっています。仁泉会の会費納入率が低下している事にも問題意識を感じています。前述した出生数の減少は将来的な学生数の減少に繋がり、大学の存続問題にも関係します。2026年度大学入試においても現状で学部間の志願者数の増減動向をみると、何とか微増の医学部を除

けば薬学部・歯学部・医学部以外の看護学部を含む医療系学部の志願者減が目立っており、一部学部学科における学生募集中止や統廃合が起こっています。そして超優秀な学生の東大・京大・早慶そして海外大学志向が一層進んでいます。大学が直面する課題に、OB会である仁泉会も他人事ではないように思っています。

香川県支部会としましては、支部会員の先生方との絆を維持・向上に努めつつ、本部が抱える課題にも向き合っていかなければならないと思っています。会費納入率UPや薬学部や看護学部などとの学部間関係性構築も大きな課題と考えています。仁泉会本部や各支部の方々と課題を共有しつつ、本学および仁泉会のお役に立てるよう頑張りたく思います。

仁泉会会員の皆様には今後ともご指導ご鞭撻願えれば幸いに存じます。今年も会員の皆様にとって良い一年でありますように。

新春のご挨拶

学 45 期 評議員
森内宏充（学 45 期）

新年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのことと拝察いたします。旧年中は多くの皆さまにお世話になり心より御礼申し上げます。

私たち学部45期は平成8年に卒業しました。月日が経つのは誠に早いもので、大阪医科大学（現、大阪医科薬科大学）を卒業してから今年で30年目を迎えます。

この三十年間で医療は本当に大きく変わりました。画像診断、診断技術の進歩、治療法の多様化、また最近ではAIの導入など、私たちが研修医だったころには想像もなかった変化ばかりです。

私は現在、第一東和会病院で整形外科医として勤務しております。整形外科の分野でも驚くほど進歩しました。関節鏡手術や人工関節の改良、低侵襲手術、ナビゲーション手術やロボット支援手術など、最近では変形性膝関節症などに対する再生医療（幹細胞治療、PRPや脂肪由来など）も話題となっております。

さらに超高齢化社会を迎え、骨粗鬆症やサルコペニア、フレイルといった課題にも向き合わなくてはならなくなりました。大腿骨近位部骨折、胸腰椎椎体骨折、上腕骨近位端骨折、橈骨遠位端骨折の症例が増加してい

ます。とくに大腿骨近位部骨折や椎体骨折は寝たきりの原因や生命予後にも大きく影響するため、国としても骨粗鬆症検診受診率の目標設定や二次性骨折予防継続管理料を導入し警鐘を鳴らしています。

当院でも他職種（骨粗鬆症マネージャーの看護師や理学療法士、医事科、薬剤部、栄養科、放射線科、地域連携室、医師事務作業補助など）と連携し二次骨折予防に取り組んでいます。

骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン10年ぶりに改訂され（2025年版）、より治療アルゴリズムが明確化されました。2000年代は骨吸収促進剤が中心でしたが、近年は骨形成促進剤が中心となってきています。今後はさらにかかりつけ医の先生方と連携して継続的に骨粗鬆症治療ができるように努力していきたいと思っています。

最後になりますが、新しい年がすべての先生方にとって実り多く、健やかな一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

本年もどうぞよろしく願い申し上げます。



受章報告

令和7年秋の叙勲及び褒章において下記の先生方の受章が判明いたしました。
慶事でありますので、ここにご報告させていただきます。

瑞宝小綬章 教育研究功労

河野公一先生 大阪医科薬科大学名誉教授 (学部21期)

旭日双光章 保健衛生功労

狩野卓夫先生 益田市医師会会長 (学部27期)

藍綬褒章 保健衛生功労

笠原幹司先生 大阪府医師会理事 (学部35期)



受賞・受章の際は編集部にお知らせください

各地での喜びの受賞・受章等がございましたら、事務局あてに書面、新聞などをお送り下さい。
FAX、メールでのお知らせも歓迎いたします。本誌にて広く紹介させていただきます。 編集係

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimuj@jinsenkai.net

表彰報告

下記の先生の表彰のご連絡がございました。
母校として慶事でありますので、ここにご報告させていただきます。

高知県功労者表彰

疋田隆雄 先生
(学部24期)

多年医師として、地域住民の診療に精励するとともに、関係団体の要職を歴任し、地域医療と保健衛生の向上に寄与した功績は大きい。特に、香美郡医師会代表として、日本一の健康長寿県構想南国・香南・香美地域推進協議会や中央東地区健康づくり推進協議会に参加し、地域医療の充実に尽力するとともに、一般社団法人高知県医師会理事として、「赤ちゃん会」において保護者を対象とした受動喫煙相談に取り組みなど、禁煙対策の推進に大きく寄与した功績は顕著である。また、疋田内科院長として、その優れた医術と熱意をもって地域住民の健康管理等保健衛生活動の向上に取り組み、地域住民の健康増進、病気の予防に大きく貢献した。さらに、地域の小学校の学校医として、児童の健康保持に貢献したほか、近年深刻化する医師不足の影響で学校医の退任が相次ぐ中、後任医師の確保に向けて、地域行政と連携を図りながら主体的に調整を行い、地域の教育現場における健康管理体制の維持に貢献した功績も大きい。

事績

- (現) 一般社団法人香美郡医師会 監事・理事・副会長・会長 (二十九年七月)
- 疋田内科院長 監事・理事・副会長・会長 (三十四年二月)
- (現) 一般社団法人高知県医師会理事 (七年五月)
- 香南市立野市小学校学校医 (三十七年)
- (現) 香南市立吉川小学校学校医 (二十五年七月)
- (現) 日本一の健康長寿県構想南国・香南・香美 地域推進協議会委員 (九年七月)
- 高知県中央東地区健康づくり推進協議会 委員 (五年)
- (現) 香南市介護認定審査会委員 (二十六年一月)
- (現) 香南市国民健康保険事業運営協議会委員 (九年七月)

履歴



(保健衛生関係)

疋田隆雄

七十六歳

香南市野市町西野

支部だより ●●

京都仁泉会 秋の講演会 報告

文責／北岡治子（学28期）

京都仁泉会では、昨年秋の講演会に続き、今年も寺村和久会長のご尽力のもと、2025年11月15日に、ホテルオークラ京都で立派な講演会を開催することができました。今回は、2025年に大阪医科薬科大学内科Ⅲ循環器内科教授に御就任された森田英晃先生ならびに、新阿武山病院 菊山裕貴先生をお迎えして、対面形式での講演会となりました。まず、寺村和久会長の開会挨拶で始まり、河野龍而先生の座長のもと、講演Ⅰは菊山裕貴先生に「睡眠障害の病態生理と Orexin 神経」の御演題で、講演Ⅱは森田英晃先生に「地域とともに診る循環器疾患～持続可能な紹介体制を目指して～」の御演題で、御講演を賜りました。講演Ⅰでは睡眠障害に関する新しい知見とともに、高齢化社会において臨床的に明日にも役立つ治療に関してご講演いただきました。講演Ⅱでは、大阪医科薬科大学の新病棟の詳細なご紹介や、循環器内科教室における最新の治療内容や診療体制について非常にわかりやすくご講演いただきました。いずれ

も聞きごたえのあるご講演内容で、参加者の皆さんが熱心に聴講されご質問されていたのが印象的でした。

講演会に引き続き、寺村会長のご挨拶、島田先生の乾杯のご発声で、懇親会がおこなわれました。今回は久しぶりの立食形式での開催で、アルコール類も出て、自由に楽しく皆さんがご歓談されるのを見て、やっとコロナ明けかなあと感慨深いものでした。司会の岡本文雄先生のもと、ご参加の先生方のスピーチもあり、皆で近況報告をしながら、大変会話が弾み、やはり同門のつながりの大事さを感じた講演会でした。今後もこのような会が末永く開催されることを望む次第です。

参加者（26名）：

- 内田 寛(学12期)、島田真久(学14期)、岡田勝彦(学17期)、今村喜久子(学17期)、竹内宏一(学18期)、岡田豊子(学21期)、稲掛英男(学20期)、大藪 博(学22期)、清水鴻一郎(学22期)、富岡 暉(学22期)、舟木 亮(学22期)、竹中 洋(学23期)、田代 博(学23期)、水谷 均(学26期)、蘆田 潔(学28期)、蘆田ひろみ(学28期)、萩原暢子(学28期)、北岡治子(学28期)、岩野正宏(学35期)、河野龍而(学35期)、瀧井道明(学36期)、上田ゆかり(学37期)、寺村和久(学37期)、柏木元実(学39期)、岡本文雄(学40期)、細田哲也(学40期) (敬称略)

共催：塩野義製薬株式会社



支部だより

浪速区、中央区（東、南） 天王寺区、西区 合同親睦会

文責／久保田泰弘（学36期）、長野文昭（学32期）、
佐久間航（学49期）

昨年度に引き続き、令和7年11月15日に浪速区、中央区（東、南）、天王寺区、西区の仁泉会合同親睦会を開催致しました。

仁泉会事務局の天野さんにも来て頂きました。

今回、初参加の先生方も数名おられ、皆さん楽しんで帰られました。

今回の企画は、中央区東長野文昭先生、南の佐久間航先生、そして久保田が春先から計画しておりました。

冒頭に主催者代表として、第36期久保田が挨拶しました。

浪速区医師会での、医療DX（電子カルテが今後重要される時代に、紙カルテのままでもスマホでネットワークに入り、DXに対応できるシステム）を導入する為に、クラウドファンディングを始めた事を紹介しました。その後、その会の出席者の中から2日で3名から支援を頂き誠に感謝しております。

お陰様で17日に目標達成致しました。



そのあと、高20の徳田修先生（98歳）に乾杯の音頭を取って頂きました。

そして浪速区から順番に参加者の近況報告をして頂きました。

浪速区から、消化器内視鏡専門外来で昨年度開業した学58期の奥久徳先生は、医師を複数雇って経営のため、日曜日も開けて頑張っています。

また、橋村直隆先生は先代より引き継ぎ30年以上の開業で、在宅医療も忙しく、また、富永病院の大西宏之先生は部長職で、関節外科を中心に最先端の再生医療も低コストでやっておられ、なんばふみもとクリニックの文元裕道先生は、形成外科出身で美容外科も、ほとんど広報せずにやってこられたそうです。



中央区東は、在住されておられます学30期の赤井啓二先生、林哲也先生、学33期の室谷益代先生、学60期の森川恵輔先生、開業・勤務の学32期の長野文昭、学35期の渡辺徹也先生、学51期の瀬浦敏志先生、学56期の松村若菜先生が、参加されました。

中央区でのお住まいの事、ご家族、お仕事のお話を賑やかにされ、宴半ばからは、同級生、クラブ、医局の先輩後輩の関連で、他区の先生方とも和気藹々と御歓談されていました。

中央区東には多くの卒業生がお住まいで、東医師会卒業生との親睦、情報交換の場になればと、思っています。

中央区南は学27期中西宣文先生、学38期小倉康晴先生、学49期佐久間、学49期荘園雅子先生、学50期米虫隆貴先生、学51期松本専先生、学60期森川恵輔先生の出席でした。

中央区南は地区内に在住されている先生はあまりいらっしゃらないようで、在住者の多い他地区がうらやましい感じがしました。

また、地区として医師会非入会の施設が非常に多いのが特徴です。

今後医師会非入会の先生にも仁泉会での交流が深めていければと考えております。

天王寺区からは、学30期島田恭光先生、学41期新田雅彦先生、学55期橘恵先生、学57期東海奈央

先生。

西区から学43期岡部太一先生、学53期米田桂子先生が参加されました。



支部だより ●●

2025(令和7)年度 淀川区支部会開催

文責／淀川区支部長 熊野宏二(学39期)

令和7年10月25日(土)にリッツカールトン大阪にて大阪市淀川区支部会を開催しました。今回は御来賓として大植 睦先生(仁泉会理事)に御臨席賜りました。

飯田紀彦先生より開会の御挨拶を頂き、大植 睦先生より母校の近況等についてのお話を頂きました。

今年も御出席の先生方にお一人ずつ、学生時代の思い出や卒業後の進路、日常診療でのエピソード等をお話して頂きました。

18時から約2時間の予定でしたが、各々のスピーチで大いに盛り上がり、終わってみれば、時計の針は21時30分を回っておりました。

今後も毎年10月の第4土曜日に淀川区支部会を開催する予定です。多くの先生方の御参加を心よりお待ちしております。

御来賓
大植 睦先生(仁泉会理事)(学40期)

支部会員
飯田紀彦(学20期)・御奥様
安田守孝(学34期)
熊野宏二(学39期)
小森 剛(学39期)
松岡孝枝(学39期)
熊野久美子(学40期)
岡田健一郎(学45期)
増田大介(学47期)
藤田愛子(学53期)
小西博巳(学59期)



支部だより ●●

令和7年度 仁泉会阿倍野支部総会開催報告

文責／井上彰子(学44期)

令和7年10月25日(土)、シェラトン都ホテル(大阪市上本町)で令和7年度仁泉会阿倍野支部総会が開催されました。仁泉会阿倍野支部は阿倍野区で開業されている先生方、阿倍野区に居住されている先生方、大阪鉄道病院に勤務されている先生方で構成されており、支部長の福本敏子先生(学24期)のご尽力により年1回の総会に加えて、納涼会、ゴルフコンペなど活発に活動を行っています。

総会は伊賀千洋先生(学29期)の司会進行で、令和6年度事業報告、7年度事業計画および会計報告があり、承認を得られました。続いて大阪鉄道病院の江村成就先生(学39期)からの病院報告、阿倍野区医師会理事の二村吉継先生(学49期)からの医師会報告がありました。

今年は大阪医科薬科大学神経精神科教授 金沢徹文先生(学49期)をお招きし、ご講演を賜りました。座長は同期の二村先生で、お二人の親交の深さがよく



わかるご紹介がありました。金沢先生のご講演は、森田眞照先生(学28期)がかつての指導者だったというエピソードから始まり、「精神科への紹介のススメ〜一般外来で色々と困る患者さんはいったいなぜなのか〜」という演題名で、①一般診療科と精神科 ②よくある「困る患者さんのパターン」③精神疾患の見取り図 ④精神科への紹介のタイミング、紹介状の書き方 ⑤紹介までの患者さんとのかわり方についてお話いただきました。阿倍野区の医療事情も含めた一般開業医向けの分かりやすい内容で、活発な質疑応答が行われました。

懇親会は森田眞照先生の乾杯挨拶後、シェラトン都ホテルの和洋折衷コース料理を堪能しながら和やかに楽しいひと時となりました。出席者全員がマイクを回しながら近況報告を行い、なかには漫談が始まりなかなかマイ



クを離さない先生もおられました、色々な話題で盛り上がりました。診療科や世代は異なっても同門の先生方と気兼ねなく交流でき、助け合いの場ともなる仁泉会の集まりは有意義なものであることを改めて実感しました。

最後は阿倍野区医師会副会長の中野晋吾先生（学34期）による閉会の挨拶でお開きとなりました。

参加者（敬称略）

金沢徹文（学49期）、福本敏子（学24期）、森田眞照（学28期）、森田利江（学28期）、伊賀千洋（学29期）、長田啓嗣（学31期）、中野晋吾（学34期）、中野久美子（学34期）、江村成就（学39期）、清水啓二（学44期）、井上彰子（学44期）、二村吉継（学49期）、中矢絵里（学55期）、新宅将之（学60期）



仁泉会大阪府支部連合会 令和8年度支部長会及び春季学術講演会 開催のご案内

日 時：令和8年5月9日（土）

支部長会：午後3時30分から

学術講演会：午後4時30分から

懇親会：午後5時30分から

場 所：ホテルグランヴィア大阪 20階 「鳳凰Bの間」

クラス会だより

大阪医科薬科大学 昭和55年卒業学29期(庚申仁久会)同窓会 開催の報告

文責／森松伸一（学29期）

大阪医科薬科大学 昭和55年卒業の学29期（庚申仁久会）同窓会を今回の場所は神戸として令和7年11月8日（土）少し早めの午後5時からホテル北野プラザ六甲荘で開催しました。

出席者の名前は以下の通りです(敬称略・あいうえお順) 東 文造、小林一朗、木戸上洋一、小嶋昭次郎、小嶋範子、坂口嘉一、佐野浩一、城石平一、城石チャンドリカ、杉田邦洋、中張隆司、中張裕子、中村積方、浪方典宏、橋本和明、濱田 潤、藤原正隆、藤原祥子、堀野俊男、本田 学、増井裕嗣、森松伸一、森松幸子、山本訓也、吉川賢二、梁 壽男 以上26名

宴会場は今回初めての和室大広間で食事は和洋折衷のような趣向を凝らしたもので、さすが北野ホテルと美味しくいただきました。波方典宏先生の司会で始めに年長の中村積方先生に乾杯をお願いし開宴となりました。続いて神戸地区を代表して増井裕嗣先生から歓迎の挨拶。続いて用意していただいた資料をもとに、ここ数年で大きく変わりゆく大阪医科薬科大学と新病院・病棟について佐野浩一学長・理事長が分かりやすく説明してください、この中で2年後には本学が100周年を迎えること

を強調されていました。この講演および宴会中に重職の学長・理事長に対して特別な慰労の言葉などありませんでしたが佐野先生にとってはこのことで逆に心が安まったのではないのでしょうか。宴もたけなわの頃、この2月に山岳仲間9名で奥日光雲渓谷・庵滝の氷瀑に行かれた堀野俊男先生が作製したビデオを鑑賞できました。ドローン撮影もありBGMありの圧巻で時間はあっという間に過ぎていきます。続いて各々の近況報告となりましたが自身の健康状態や仕事について、特に電子カルテについてのスピーチが主でしたが、そのうち我々が学生時代に創立50周年記念祭があって、その中で皆が知らないような裏話（これまではオフ・レコードだったのか）が噴出し、さらに話がはずみました。近況報告の最後頃には時間も終わりに近づき、閉会の挨拶もそこそこに写真撮影となりました。残念ながら新幹線の時間のため小嶋ご夫妻は全体撮影だけはかかないませんでした。時間ギリギリまで参加していただきました。写真は二科展写真の部に4回入賞されている浪方先生のカメラ（ライカLeica製）で行いました。学生時代からと同じように、あっという間に時間は過ぎお開きとなりましたが、飲み足りない、話が足りない宿泊組6名を中心に神戸の夜の街に繰り出していきました。次回は2年後、本学創立百周年に合わせて大阪での開催予定です。



クラス会だより

「47同窓会」2025.11.2

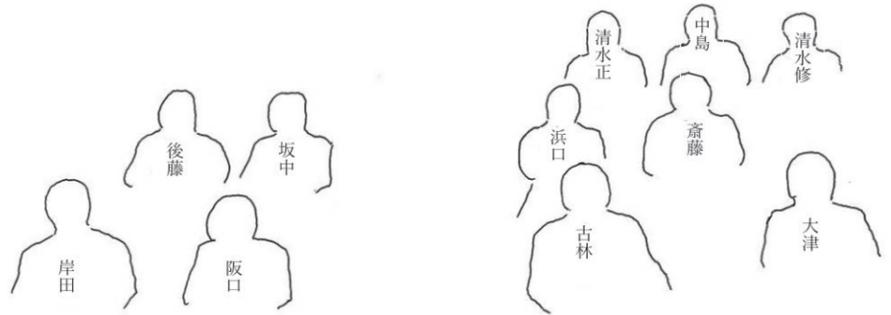
文責／古林光一（学21期）

経験のない、暑い夏でした。気候が良くなり、秋晴れの11月2日、日曜日、47同窓会が開かれました。後藤研三先生が、今回の幹事さん、一人で全部、準備してくださいました。後藤先生有難うございます。階段教室・新病棟・手術室・植木先生ご自慢の樹木の待合室・絵画・デジタル大原美術館等見学をさせて貰いました。昔23病棟に居られた看護師の久永さん、大学事務局から濱田さん、2人で丁寧に説明して戴きました。ありがとうございました。

その後、「桃谷樓」高槻阪急6Fで、懇親会が開かれました。清水正賀先生が久しぶりに参加してくれました。顔が、初め判りませんでした、見ているうちに思い出しました。27名集まりました。上原春男先生、近森正幸先生、に次いで、今年は、河野公一先生が叙勲の榮譽を受けられました。おめでとうございます。楽しい時間は、アツと言う間に過ぎていきます。来年は京都・上原春男先生が、幹事をして呉れます。きっと舞子さんも呼んでくれるでしょう。お楽しみに。

今年、5月2日：久徳均先生、5月3日：佐々木尚先生2名の先生がご逝去されています。ご冥福をお祈りいたします。

47同級生の皆さん、メルアドを教えてください。住所判明68名。メルアド判明45名。携帯メルアドでも結構です。変更があればお知らせください。



47 同窓会 2025.11.2 階段教室



大阪医大 47 同窓会 2025.11.2 於 [桃谷樓] 高槻阪急 6 階

クラス会だより

高原 健君（学48期） 教授就任を祝う会 開催報告

文責／神吉佐智子（学48期）

2025年7月19日（土）、7月の連休初日の夕刻に、ハービスエント7階 XEX WEST にて、大学時代の同窓生である高原君の藤田医科大学 医学部 腎泌尿器外科学講座 主任教授のご就任を祝う会を開催いたしました。参加者は20名強で、出席番号前半に偏った、いわゆる「教養時代のA班」の仲間が中心となりました。

乾杯の挨拶は灘波君、続いて濱田君のあいさつ、お祝いの品の贈呈は高橋君、滝沢さん、吉田（多田）さんが務めてくださいました。贈り物は、高原君のリクエストに応えた青の革の三つ折り財布と、同級生からのメッセージファイルと花束。メッセージファイルには、参加できなかった皆さんから事前に寄せられた言葉をプリントアウトし、当日の参加者にもその場で書き添えていただきました。

翌日には高原君から、次のようなお礼の言葉をいただきました。

みなさま、昨日はホントにありがとうございました。
 素敵なプレゼントもありがとうございました。
 学生時代に戻って、とても有意義な時間を過ごさせて顶きました。
 みなさんと過ごした学生時代は、プライスレスの財産です。
 またしばらく名古屋で頑張っていきます。
 またお会いできる日を楽しみにしています。

高原君は、卒後20周年を前に初めて同窓会を開催するきっかけをつくってくれた人でもあり、同窓生のつながりを大切にしてくれる姿勢が私たちにとって大きな励みです。母校を離れて改めて仲間の存在価値を感じることもあるのかもしれませんが、学生時代の濃密な時間は、今の私たちの知識や経験の原点であり、一緒に学び成長した仲間との喜びを分かち合えることは何よりの財産です。

「平成11年会」として、これからも些細なことでも皆で集まれる機会を大切にしていきたいと思えます。総代の佐山君の指揮のもと、茨木君とともに企画を進め、事務的な面でいつも支えてくださる滝沢さんにも改めて感謝申し上げます。

次回以降も、ぜひお気軽にご連絡いただき、また皆で集えることを楽しみにしています。



お祝いの記念品



メッセージカード



メッセージファイルに添えられた花束



1次会（XEX WEST）



2次会（ハービス PLAZA）

クラス会だより

2025年11月15日 田中教授、塗教授就任祝賀会・ 学52期同窓会開催のご報告

文責／宮村昌利（学52期）

2025年11月15日、私たち学52期生46名が帝国ホテル大阪に集い、同級生である大阪医科薬科大学産婦人科学教室教授・田中智人先生と形成外科学教室教授・塗隆志先生のご就任の祝賀会・同窓会を開催しましたので、代表して報告させていただきます。遠くは千葉県や福岡県からも駆けつけてくださった先生方がおられ、参加が叶わなかった先生からは大きなお祝いの花が届けられ、会場を華やかに彩りました。卒後15年目に開催された



れた前回の同窓会にも参加していた先生方はもちろん、今回初めて参加された先生も多数おられました。

司会の藤田修一先生（大阪医科薬科大学循環器内科）により軽快かつ温かい雰囲気で行われ、冒頭、お二人の

教授よりご挨拶を賜りました。お二人は謙虚な言葉ながら、教授に至るまでの弛まぬ努力と周囲への感謝を述べられ、一同深く感銘を受けました。続いて宮村（大阪医科薬科大学循環器内科）よりお二人への祝辞と参加者の今後の健勝を祈念し、乾杯の発声が行われ祝宴が開幕しました。

久方ぶりの再会に会話は各所で自然と弾み、学生時代の思い出話から臨床現場での苦勞、家庭や趣味の話まで幅広く話題が広がり、会場は終始和やかに熱気に満ちておりました。

また、参加者一人ひとりが壇上に上がり、お二人への祝福の言葉とともに自身の近況を紹介され、同期の多彩な活動を知るよい機会となりました。

最後に全員で集合写真を撮影し、一旦は祝賀会のみで散会の予定でした。しかしながら、久しぶりの再会に名残惜しむ声が多く上がり、急遽その場で二次会が企画されました。結果として多くの先生方が引き続き参加され、会話は途切れることなく盛り上がり、気づけば閉店時間となり、自然とお開きとなりました。さらに、大阪に宿泊されていた先生を中心に有志で三次会が開かれ、深夜に及ぶまで語り合う場となり、同期の絆の強さと温かさを改めて実感いたしました。

本会の準備と運営に尽力された幹事の藤田修一先生、田中良道先生（大阪医科薬科大学産婦人科学）、柿本一城先生（大阪医科薬科大学消化器内科学）に、心より感謝申し上げます。今後お互いの研鑽と親睦を深め、また近いうちに再会できることを願っております。



女性医師・研究者 キャリアアップセミナー

誰もが輝くことができる明日へ

2026年 2月20日(金)
17:30 ~ 18:50 (80min)

ハイブリッド開催（現地+ZOOM ウェビナー）
開催場所：大阪医科薬科大学 講義実習棟
学II講堂（第2講義室）
〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7



総合同司会 大阪医科薬科大学 女性医師研究者支援センター 副センター長 神吉 佐智子 先生

開会の辞

17:30-17:35
大阪医科薬科大学 女性医師・研究者支援センター 副センター長 喜田 照代 先生

基調講演 「女性医師・研究者支援センターの取り組み」

17:35-17:45
大阪医科薬科大学 女性医師・研究者支援センター センター長 松村 洋子 先生

特別講演

「わたしが育つ、あなたを育てる：ジェンダーの違いを踏まえて考える人材育成」

東京科学大学 脳神経病態学分野 教授 三澤 園子 先生

閉会の辞

18:45-18:50
大阪医科薬科大学 副学長 南 敏明 先生

・本講演は日本医師会生涯教育講座（1単位）として開催いたします。
・カリキュラムコード：84【最新のトピック・その他】を取得可能です。
・生涯教育講座受講希望者は、右記URLまでお知らせください。

【参加申込方法】

下記URLまたは、右の2次元バーコードより登録ください。
https://chugal-pharm.zoom.us/webinar/register/WN_tMBJ7d2TTLGGQiiVgZ3gog
参加型アンケートを実施します。現地でご参加の方は、携帯をご持参ください。

【お問い合わせ】

人事部 人事管理課（本館・図書館棟1階）担当/ 前田・青山・権田
Tel：(072) 684-7208（内）3293 Mail：smart@ompu.ac.jp



共催 大阪医科薬科大学 女性医師・研究者支援センター
中外製薬株式会社

仁泉ひろば

jinsen-park

電子処方箋の発行に必須なHPKIに関するホームページ記事がGoogle検索3位、Yahoo検索4位を達成しました

文責／上杉康夫（学34期）

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪急性期・総合医療センター放射線治療科
(在職出向) 兼 市立貝塚病院 顧問 放射線治療科

インターネット検索で、ホームページの広場 第43回「電子処方箋発行資格(HPKI)の取得…結局どれがお得?」(大阪医科薬科大学医師会会報オンラインジャーナル ISSN: 2436-5424 巻62 ページ36-49 2024年9月15日)のネット掲載記事が検索word「HPKI」で Google 検索3位、Yahoo 検索4位を達成しました。

上記掲載記事では電子処方箋で必要となるICカードであるHPKI(Healthcare Public Key Infrastructure : 保健医療福祉分野公開鍵基盤)カードについての解説のほか、原稿記載時点での最も安価なHPKI導入方法、ネットを利用した申し込み方法について具体的に解説しております。

Google検索では政府系機関を押さえ、日本医師会、日本薬剤師会に次ぐ3位を、Yahoo検索では日本医師会、日本薬剤師会、政府系電子認証局に次ぐ4位を達成することができました。

大変意義深く、名誉なことと感じております。また医療に従事される方の一助となれば幸甚でございます。

内容詳細は大阪医科薬科大学医師会

<https://www.ompu.ac.jp/u-deps/ompuda/>

の大阪医科薬科大学医師会会報オンラインジャーナル

https://www.ompu.ac.jp/u-deps/ompuda/report/pdf/report_62_p36-49.pdf

をご参照いただければ幸いです。



大阪医科薬科大学医師会 URL の QR コード



大阪医科薬科大学医師会会報オンラインジャーナル掲載記事 URL の QR コード



Google 検索 3 位 2025 年 11 月 27 日、12:18:09 現在



Yahoo 検索 4 位 2025 年 11 月 27 日、12:34:28 現在

ホームページの広場

第43回
「電子処方箋発行資格(HPKI)の取得…結局どれがお得?」

放射線腫瘍学教室 非常勤講師
(関西福祉科学大学 保健医療学部 教授) 上杉 康夫

1. 電子処方箋の概要

電子処方箋とは、電子的に処方箋の運用を行う仕組みであるほか、電子処方箋によって複数の医療機関や薬局で直近に処方・調剤された情報の参照、それらを活用した重複投薬等チェックなどを行えるようになります(図1)¹⁾²⁾。

電子処方箋により、これまで紙でやりとりしていた処方箋をオンラインで連携する仕組みが構築されます。電子処方箋を使用するには、システム上でオンライン資格確認がなされています。使用するにはオンライン資格が必要で、電子化によって医療機関と薬局患者との間の情報共有やコミュニケーションが促進されることにより、より良い医療の提供が行えるようになります。患者さんに関するこれまでの処方情報や薬剤情報がデータとして蓄積され、来院時にマイナンバーカードで患者本人の同意を得るとこれらの情報を参照できるようになります。また、この情報を活用し重複投薬等チェックの結果確認が行えるようになります。より正確な情報を基に診療を行えるようになります。

電子処方箋は医療機関と薬局の円滑な連携にもつながります。医療機関から薬局へ電子化された処方箋の内容がスムーズに連携されると共に、システム化によって医療機関と薬局の間で処方箋と調剤結果についても管理サービス経由で共有する事ができ、医師と薬剤師のスムーズな連携が期待できます³⁾。

正式運用に先立って2022(令和4)年10月31日から全国4地域の38施設(医療機関7施設)

大阪医科薬科大学医師会会報オンラインジャーナルホームページの広場 第 43 回「電子処方箋発行資格(HPKI)の取得…結局どれがお得?」の1ページ head 部分詳細は https://www.ompu.ac.jp/u-deps/ompuda/report/pdf/report_62_p36-49.pdf もしくは本稿記載 QR コードからご参照ください。

仁泉ひろば

jinsen-park

2025(令和7)年度大阪医科薬科大学ヨット部OB総会

文責／石崎英介（学45期）

2025(令和7)年度ヨット部OB総会が、令和7年8月30日土曜日に開催されました。

昨年はヨット部創設メンバーである服部元史先生の東京女子医科大学腎臓小児科教授退職記念祝賀会とOB総会を兼ねて開催しましたが、本年は同じくヨット部創設メンバーであり、かつ長年にわたりヨット部部长を務めていただいた上田晃一先生の本学形成外科教授退職記念、また今年から新たに部長に就任いただきました西川浩樹先生の部長就任記念祝賀会を兼ねて行われました。

会場は昨年と同様ホテルグランヴィア大阪にて行い、まず西川先生のご挨拶をいただきました。先生は1999年(平成11年)京都大学医学部を卒業され、2022年(令和4年)より本学内科学II教室の主任教授に就

任されました。先生は学生時代ヨット部に所属されており、今なお持ち続けておられるヨットへの熱い思いを語っていただきました。

次に総会を行い、前年度会計および、西川先生を特別会員としてお迎えする件が承認されました。

続いて服部元史先生に乾杯のご発声をいただき開宴。歓談中に出席者全員より一言ずつご挨拶をいただきました。また現役員からは部の現状の報告、西医体の結果報告がありました。

最後に上田先生に長年のご尽力への御礼を込めて記念品の贈呈を行い、記念撮影にて散会となりました。

現在ヨット部は一時期の存続の危機を脱し、薬学部からも新入部員を迎えて人数は増えてきましたが、兼部者も多く練習、レースに十分な人数を確保するため、同様に部員不足に苦慮している関西医科大学ヨット部と活動を共にしているようです。9月には合同のOB戦も行い、OB同士の交流も深めました。少ない人数ながら部の雰囲気は明るく、前向きでやる気にも溢れている様子が見て取れました。引き続きOB会としても現役部員のサポートを続けていきたいと考えています。来年度以降もOBの先生方のご出席をお待ちしております。



出席者
梶野興三(学23期)、上田晃一(学33期)、西川浩樹(本学内科II教授)、孫田虎鉄(学33期)、服部元史(学33期)、前村憲太朗(学35期)、島田哲志(学36期)、相馬義郎(学36期)、杉本裕宣(学38期)、高木雄久(学39期)、西部彰(学39期)、江村成就(学39期)、高橋元(学44期)、石崎英介(学45期)、大前貴裕(学45期)、可児弘行(学45期)、可児佳代子(学45期)、亀井宏治(学46期)、柳楽知義(学46期)、岸勘太(学48期)、高橋猛(学49期)、白石将史(学50期)、堤 淳(学50期)、中島祐介(学53期)、中島三和(学53期)、檜林 賢(学53期)、久保洋一郎(学55期)、濱口拓哉(学68期)、松田圭由(学71期)、黒川達也(学74期)

現役員:伊藤正敏(医学部4年生)、日比野智美(医学部4年生)、岩田大雅(医学部3年生)、奥野きさら(医学部3年生)、坂口元(医学部3年生)、大石元輝(薬学部2年生)、吉野立馬(医学部2年生)、高木湖都(薬学部1年生)、日野友理香(薬学部1年生)、表利優輝(医学部1年生)、福田知帆(薬学部1年生)、牧村舞香(薬学部1年生)

仁泉ひろば

jinsen-park

大阪医科薬科大学 硬式庭球部OB・OG会 総会・祝賀会報告

文責／宮村昌利（学52期・平成15年卒）

令和7年10月25日、ザ・サウザンド京都にて大阪医科薬科大学硬式庭球部OB・OG会の総会および祝賀会が開催されました。今回の総会では、OB・OG会長および学生部長の交代という重要な節目を迎え、加えて複数の先生方の教授就任を祝う祝賀会も併せて行われました。

コロナ禍以降、飲食を伴う懇親会の開催は見送られており、今回の祝賀会は実に5年ぶりの開催となりました。久々の対面での交流の場に、会場は終始華やかで和やかな雰囲気に包まれました。

第一部の総会では、北口和彦先生（平成17年卒）の司会のもと、森田英晃先生（平成7年卒）への部長交代と挨拶、新田雅彦先生（平成4年卒）による西医学視察報告が行われました。続いて、OB・OG会長交代に関する審議が行われ、北口和彦先生の新会長就任が全会一致で承認されました。新会長の挨拶と新体制についての説明もあり、今後のOB・OG会活動への期待が高まりました。

第二部の祝賀会は、宮村昌利先生（平成15年卒）の司会により進行されました。開会の辞は前OB・OG会長の林哲也先生（昭和56年卒）よりいただき、続いて榊原茂樹先生（昭和43年卒）の乾杯のご発声で祝宴が始まりました。

祝賀会では、今年度に内科学III講座主任教授に就任された森田英晃先生をはじめ、医療安全推進室の特務教授に就任された新田雅彦先生、コロナ禍の間にQI管理室の特務教授に就任された上田英一郎先生（平成3年卒）、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の専門教授に就任された寺田哲也先生（平成4年卒）の4名の先生方をお祝いする場となりました。

飯田 稔先生（昭和44年卒）、竹中 洋先生（昭和49年卒）、河本政一先生（昭和61年卒）、安藤嗣彦先生（昭和46年卒）からの祝辞に続き、参列されたすべての先生方から近況報告や教授就任への祝福、学生時代の思い出など、心温まるコメントをいただきました。特に今回は卒業後初めてOB・OG会に参加された先生や、4名の教授と同じ時代を過ごされた先生方も多く、また卒後20年以下の若手OB・OGの先生の参加も目立ち、世代を超えた交流が実現しました。

会の終盤には、4名の教授よりご挨拶をいただき、最後は新会長の北口和彦先生による閉会の辞で締めくくられました。恒例の全員によるエールで会は盛大に幕を閉じ、参加者一同、今後のOB・OG会活動への意欲を新たにしました。

今回の総会・祝賀会は、硬式庭球部OB・OGの絆を再確認し、未来へとつなぐ貴重な機会となりました。今後も世代を超えた交流を大切にしながら、大阪医科薬科大学硬式庭球部のOB・OG会活動をさらに充実させてまいります。



乾杯風景



森田教授挨拶



飯田先生挨拶

参加された先生一覧 全56名

昭和43年卒・学17期 榊原茂樹先生、昭和44年卒・学18期 飯田 稔先生、昭和46年卒・学20期 安藤嗣彦先生、昭和47年卒・学21期 古屋紳子先生、昭和47年卒・学21期 坂中 勝先生、昭和47年卒・学21期 清水 修先生、昭和48年卒・学22期 出口寛文先生、昭和48年卒・学22期 菱谷好高先生、昭和49年卒・学23期 竹中 洋先生、昭和49年卒・学23期 近藤敬一郎先生、昭和52年卒・学26期 下村泰造先生、昭和53年卒・学27期 村木宏要先生、昭和56年卒・学30期 木村文敏先生、昭和56年卒・学30期 林哲也先生、昭和57年卒・学31期 井上 了豪先生、昭和60年卒・学34期 岩崎義弘先生、昭和61年卒・学35期 河本政一先生、昭和62年卒・学36期 小泉 閑先生、昭和62年卒・学36期 綿谷 卓先生、昭和63年卒・学37期 杉 和憲先生、平成1年卒・学38期 飯山佳英子先生、平成3年卒・学40期 上田英一郎先生、平成4年卒・学41期 寺田哲也先生、平成4年卒・学41期 小見山淳子先生、平成4年卒・学41期 新田雅彦先生、平成5年卒・学42期 三木啓資先生、平成5年卒・学42期 佐分利良公先生、平成6年卒・学43期 野村幸哉先生、平成7年卒・学44期 森田英晃先生、平成8年卒・学45期 吉益 隆先生、平成9年卒・学46期 江村和世先生、平成10年卒・学47期 吉村静宜先生、平成10年卒・学47期 平杉嘉平太先生、平成11年卒・学48期 岡本純典先生、平成11年卒・学48期 金 禹瓊先生、平成12年卒・学49期 武田義弘先生、平成12年卒・学49期 藤村憲崇先生、平成15年卒・学52期 宮村昌利先生、平成15年卒・学52期 横山和武先生、平成16年卒・学53期 村田真衣子先生、平成16年卒・学53期 白数明彦先生、平成17年卒・学54期 北口和彦先生、平成17年卒・学54期 広田千賀先生、平成17年卒・学54期 松浦喜貴先生、平成17年卒・学54期 磯田健太先生、平成19年卒・学56期 砂田真澄先生、平成19年卒・学56期 重里 寛先生、平成20年卒・学57期 芦原敬允先生、平成25年卒・学62期 福村匡央先生、平成26年卒・学63期 藤田正紘先生、平成31年卒・学68期 前田和人先生、令和4年卒・学71期 岡田光司先生、令和5年卒・学72期 森田律貴先生、令和6年卒・学73期 三木雄斗先生、令和6年卒・学73期 西阪直生先生、令和6年卒・学73期 香山豪大先生

仁泉ひろば

jinsen-park

令和7年度大阪医科薬科大学 バレーボール部OBOG会六友会 理事会、総会、懇親会のご報告

文責／綾仁悠介（学60期）

秋晴れの空が広がった令和7年9月28日曜日、大阪医科薬科大学バレーボール部OBOG会・六友会の理事会、総会ならびに懇親会を、ホテルアベスタグランド高槻にて開催いたしました。コロナ禍を経て恒例の開催が定着し、今年も多くOBOGおよび現役部員が集い、終始和やかな雰囲気の中で交流が行われました。

理事会および総会の司会は朝隈光弘先生（学47期）が務められました。理事会では新理事の選出に続き、理事長 保田 浩先生（学31期）、現役監督 山崎哲司先生（学60期）の両名が引き続き再任されることが全会一致で承認されました。総会の冒頭では、大槻周平会長（学47期）よりご挨拶があり、続いて物故会員となられた田村勉紀先生（学14期）、吉本 博先生（学32期）に黙祷を捧げました。池田直廉理事（学49期）より会計報告がなされ、小林一朗監事（学29期）、内山和久監事（学32期）による監査結果も報告されました。

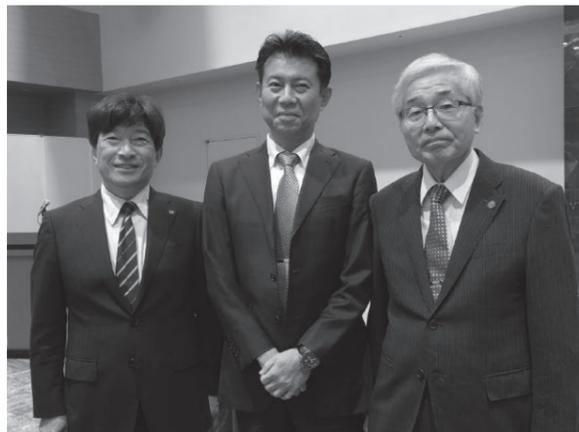
本年度の西日本医科学生総合体育大会（西医体）では、男子・女子両主将より成績報告があり、特に女子部が見事準優勝という快挙を果たしました。この結果は男女を通じて過去最高の成績であり、現役部員の努力と成長に会場からは大きな拍手が送られました。

懇親会は池田直廉先生（学49期）の司会により始ま

り、大槻会長から開会のご挨拶を頂きました。続いて再任となった保田理事長および山崎監督からご挨拶があり、現役部員への温かい激励と、六友会のさらなる発展への意気込みが語られました。乾杯ののち、会食が進む中で現役部員（男子医学科24名、女子医学科16名）が一人ずつ自己紹介と今後の抱負を述べ、OBOGの先生方も熱心に耳を傾けられていました。女子部の準優勝を祝して、松本正明先生（学25期）から花束の贈呈、保田理事長から目録の贈呈が行われました。銀メダルを首からかけた現役女子部員の姿は誇らしく、会場は歓声と拍手に包まれました。理事長からは「全医体に向けてさらなる飛躍を」と力強い言葉が送られました。また、監督の山崎哲司先生が編集された西医体の試合ビデオも上映され、女子部の堂々たる戦いに加え、男子部の惜しい試合展開にも会場からは感嘆の声が上がりました。映像を通じて現役部員の懸命なプレーを振り返りながら、OBOG一同があらためて後輩たちの成長を実感するひとときとなりました。終盤にはOBOGの先生方からも近況報告や思い出話が披露され、世代を超えた交流の輪が広がりました。最後に集合写真を撮影し、再会を誓って閉会となりました。

参加者（敬称略・順不同）

学 21 期	後藤研三	学 45 期	坂 良逸
学 25 期	松本正明	学 47 期	朝隈光弘
学 29 期	小林一朗	学 47 期	大槻周平
学 29 期	湯川裕史	学 49 期	池田直廉
学 31 期	保田 浩	学 55 期	西田 悠
学 32 期	内山和久	学 60 期	綾仁悠介
学 32 期	田中雅也	学 60 期	山崎哲司
学 44 期	島川修一	学 63 期	東堂まりえ
学 44 期	西本昌義	学 67 期	岩田長瑠
学 45 期	市岡従道	学 74 期	田 淵 廉



仁泉ひろば

jinsen-park

掌編小説

「西暦2073年の我が母校」

文責／福間勇太朗（学72期）

西暦2073年の初夏のある日曜日、私は半年ぶりに懐かしき我が母校の門をくぐった。

阪急京都線高槻市駅から道路一本だけを隔てた道を歩くとそこには真っ白な外壁を陽の光に照らされた病院がそびえ立っていて、この50年間で幾度となく改築を繰り返しても北摂地域の医療と公衆衛生に貢献する大学附属病院の存在意義は何も変わっていない。

私がこの大学の医学部医学科を卒業したのは2023年3月のことで、卒後すぐに母校の附属病院に初期臨床研修医として入職した私は臨床研修の修了後そのまま同院のとある臨床系診療科に専攻医として入局した。それからは大学本院と関連病院を行き来しながら10年以上臨床医としての医師生活を送り、ドイツへの留学をきっかけに基礎研究の面白さに目覚めた私は妻子ある40代になって初めて基礎医学教室の教員に転身した。天の巡り合わせで50代半ばにして基礎医学教室の教授という立場を得た私はそのまま定年まで教員として勤め上げ、教授退官後は母校の名誉教授に任命される栄誉を受けた。私の人生は常に我が母校と共にあり、我が母校は私のもう一つの故郷と言える存在だった。

私が入学した2017年には大阪医科大学という名前だった我が母校は系列校だった大阪薬科大学と合併して2021年に大阪医科薬科大学と改称され、それからも歴史の中で近隣の医療系大学と合併したり時には新たな学部を新設したりしてその度に校名が変わっていった。何度名前が変わっても我が母校がかつての大阪医科大学と大阪薬科大学に宿っていた善き医療人育成の使命を忘れることはなく、今日の私はそんな母校に名誉教授としての記念講演を行うために招かれていた。今日は日曜日だが私の講演を聴講するために臨床・基礎を問わず教員時代の多数の後輩や大学院生、そして学部生が集まってくれているとのことで、私は齢77の老体になっても我が母校の後進たちに恥じない講演をしたいと考えていた。

かつてP101教室と呼ばれた講堂に向かうために中庭

を通過して歩いていくと、大学構内には制服を着た高校生たちの姿も散見された。彼らはこの大学の附属校の生徒たちで、私の講演を聴講しに来てくれたのかも知れない彼らは私の中学校の後輩でもあった。

私は2009年に当時は高槻中学校・高等学校と呼ばれていた私立の中高一貫校に入学し、2015年に高槻高校を卒業した後に2年間の浪人生活を経て大阪医科大学の医学部医学科に入学した。2009年当時正式には大阪医科大学の附属校ではなかった高槻中学校・高等学校は私の在学中に名実ともに附属校扱いとなり、私の在学中は男子校であった同校は私の卒業後に共学化され、北摂地域の女子の中学受験生から人気を集める中高一貫校となっていた。

大阪医科大学が歴史の中で何度も校名を変えていったように高槻中学校・高等学校もこれまで改称が繰り返され、中等教育学校への改組もあって2073年現在では「高山聖徳中等教育学校高槻分校」というのが正式名称になっている。我が母校は伝統的に大阪府大阪市天王寺区にある私立中高一貫校の四天王寺高校からの進学者が多かったが、同校との交友関係の深まりにより高槻中学校・高等学校は数十年前に同校と合併した。その際に高槻市ゆかりの戦国武将である高山右近と四天王寺中学校・高等学校に縁が深い聖徳太子の名を受けて高山聖徳という新校名が決定し、女子校であった旧四天王寺中学校・高等学校を共学化した上で両校をそれぞれ高槻分校、四天王寺分校と呼称することが決まっていた。

私は詳しい事情を把握していないがここ数十年の間に高山聖徳中等教育学校には附属小学校や附属幼稚園も新設されたとのことで、我が母校とその附属校は今では北摂地域で有数の規模を誇る学校群として名を馳せているという。一人息子を含めた私の親族にも我が母校とその附属校のお世話になった人物は少なからずおり、私の人生の意義はこの母校においてこそ確立されたのだと改めて強く心に感じた。

そんな感傷に浸りながら私は懐かしき講堂に入り、今日もまた今を生きる後輩たちに温故知新の心で医学・医療の知見を教示していくのだった。

ここからは三人称でお送りします。名誉教授が母校で記念講演を行っているその時、大阪府高槻市内のとあるマンションではいわゆる教育ママのお母さんが今年で5歳になる娘に小学校受験の勉強をさせていました。

「ほらエリカ、日曜日なのに早起きして眠いのは分かるけどちゃんとこの絵札を見なさい。さっきまでママが持っていた絵札とこの絵札で一緒なのはなんでしょう？」

「えーと、どっちもフルーツ！」

「正解です。でも本番では丁寧にくだものって言いなさいね。次はいつもの練習をするわよ」

「ええー、ちょっときゅうけいしてからじゃだめ？」

娘のエリカちゃんに見せていた赤いりんごが描かれた絵札をケースに片付けたお母さんは、リビングの床に正座したまま何も持たずに面接官の役としてエリカちゃんに話しかけました。

「エリカさん、あなたが今日お試験を受けに来たこの小学校の名前を言えますか？」

「えーと……おおさかいかしとかやっかじゅういはけんりはびりてーしょんだいがくふぞくたかやましようとかちゅうとうきょういくがっこうたかつきぶんこうぐろーばるさいえんすこーすふぞくしょうがっこう？」

「違います！ 昨日あれだけ復習するのにまだ覚えられないの!? 『看護』と『技術』が抜けてるじゃない!!

もう一回言ってみなさい！」

「ふえーん、そんなこといわれてもむずかしいよお……」

「ちょっとママ、朝からそんな大声出したら近所迷惑だよ。大体こんな小さい子に毎日毎日……」

感情的になっているお母さんの声を聞いて寝室から起きてきたのはお母さんの旦那さんかつエリカちゃんのお父さんである30代の男性で、彼はエリカちゃんが受験予定の小学校を有する学校法人の附属病院に医師として勤務していました。

「うるさいわね、そもそもあんたの収入が低いからエリカをあの子の附属幼稚園に入学させられなかったんでしょ！ もしエリカが大阪医科歯科薬科獣医看護保健技術リハビリテーション大学附属高山聖徳中等教育学校高槻分校グローバルサイエンスコース附属幼稚園芥川校舎に入学できてたら小学校受験で加点して貰えたのに!!」

「そんなこと言ったって附属幼稚園から確実に小学校に入れて貰える訳じゃないんだから無理に私立幼稚園に行かなくてもいいじゃないか。大体高山聖徳中等教育学校には普通に中学受験で入れるんだから僕はエリカは公立小学校でもいいって思ってるよ」

「あんたは自分が中学受験の面倒を見る訳じゃないからそんなことが言えるのよ！ エリカが大阪医科歯科薬科獣医看護保健技術リハビリテーション大学附属高山聖徳中等教育学校高槻分校グローバルサイエンスコース附

属小学校に入れたらほぼ確実に大阪医科歯科薬科獣医看護保健技術リハビリテーション大学附属高山聖徳中等教育学校高槻分校グローバルサイエンスコースに進学させて貰えて、そのまま医学部か歯学部か薬学部か看護学部かそれ以外か分かんないけどとりあえず現役で大阪医科歯科薬科獣医看護保健技術リハビリテーション大学に進学できるのよ!? このチャンスをみすみす逃す手なんてないじゃない!!」

「うわーん、パパもママもあさからけんかししないでよー」

「全くもう、君が延々怒鳴るからエリカが泣いちゃったじゃないか。面接で正式な校名を言えないと落とされるなんてインターネットに書かれてた噂でしかないし、僕の勤務先だって正式名称は『学校法人大阪医科歯科薬科獣医看護保健技術リハビリテーション大学大阪医科歯科薬科獣医看護保健技術リハビリテーション大学病院』だけど学校法人名まで全部言わせるつもりかい？」

「そうだったの!? それならちゃんと全部言えば他の受験生に差を付けられるわ!! エリカ、今からママがもっと正しい学校の名前を言うからちゃんと覚えなさいね。せーの、学校法人大阪医科歯科薬科獣医看護保健技術リハビリテーション大学大阪医科歯科薬科獣医看護保健技っ!!」

「うわっどうしたのいきなり！ って思いつき舌噛んでる!? 僕内科医どころか病理医だから何も処置できないよ！ 救急車救急車!!」

「うわーんしないでママー!!」

小学校受験生とその親御さんは今日も大変です。

(おしまい)





院長 川西洋平 先生
平成17年卒（学54期）
副院長 川西恵美子 先生
平成17年卒（学54期）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、兵庫県神戸市須磨区にて「神戸板宿クリニック 整形外科・皮膚科・美容皮膚科」を開院いたしましたので、謹んでご報告申し上げます。

ご開業のきっかけについて

私たち夫婦は2005年に母校を卒業いたしました。院長である私は、当初は循環器内科や産婦人科への進路を考えておりましたが、大阪厚生年金病院（現JCHO大阪病院）での初期研修中に整形外科へと志を転じました。理由は、今でいう“ワークライフバランス”を重視したいという思いからです。

その後、手外科を専門とし、市立豊中病院、神戸市立医療センター中央市民病院・西市民病院にて後期研修を受け、大阪大学整形外科学教室に入局。関連病院での勤務と大学院での研究を通じて、医師としても一個人としても多くを学びました。

2017年からは、兵庫県明石市の特定医療法人誠仁会 大久保病院にて、手の外科・外傷センター部長として勤務。手術に喜びを感じながら、2025年までに約3,000件の手術を行い、作業療法士8名を擁する手外科チームを構築いたしました。

恵まれた勤務医生活を送っており、当初は開業を考えておりませんでした。しかし、周囲の勤務医の先輩方が不満を抱えながら働く姿に触れ、40歳を迎える頃から開業を選択肢の一つとして意識するようになりました。

医業での開業は、これまで培ってきた医療サービスを提供するだけと考えがちですが、実際には人件費や物価の高騰に対し、診療報酬は国が定めるため価格転嫁ができず、消費税も患者さまから徴収できないなど、

ビジネスとしてはかなり厳しい現実があります。しかし、他業種での開業も検討しましたが、最終的には自分の専門性を活かせる医業での開業を決意いたしました。

院長とは名ばかりで、実際には中小企業の経営者としての責任を担うことになります。医業での開業は茨の道とも言えますが、さまざまなご縁に恵まれ、夫婦で現在の地にて開院する運びとなりました。

執筆時は開業して間もない時期ではありますが、医療業界での経営は簡単ではないと体感しております。まず、コロナ禍前はsafety netとして機能していた飲食業でさえ時給がかなり高騰しており、クリニックに良い人材を確保するのは容易ではありません（現時点では人材に恵まれたと信じています）。また、開業前は“paper-lessにしてやる！”と燃えていましたが、すぐに諦めました。病診連携にもオンライン対応してくれる医療機関はごく稀（今のところ1つだけ）で、いまだにFAXや電話が必要です。同時に、世間では経営効率を上げるための手段として主流であるデジタル化はかなり遅れていて、しばらく進まないと感じました。電子カルテという名のレセプトコンピューターと医療機器との連携も病院ほどスムーズではありません（メーカーはできないといいますが、しぶとく交渉？すれば全てできました）。電子処方箋やオンライン決済を導入しても紙で控えを渡さなくてはいけない。などなどきりがありません。結局は、いちクリニックが頑張ったところで、国が主導する医療業界全体のシステムと主たるユーザーである高齢者が対応しないので不可能だとわかりました。現在は、“too much paper”で運営しており、毎日の診療終わりにシュレッダーにかけられた大量の紙屑を高額な業務用ごみ袋に押し詰めています。SDGsやデジタル化といった建て前と相反する現実を目の当たりにしています。この課題は、次の世代の託したいと思います。



仁泉会の先生方に一言お願いします

学生時代はサッカー部に所属しておりました。部活動に熱心とは言えませんが、同期・後輩・一部の先輩方との関係は良好で、医局や職場で一緒にいた先生方もおられ、今でもプライベートで定期的に交流を続けております。開業準備に際しても、同時期に開業される仁泉会の3人の先生方と共に情報共有とメーカーとの価格交渉を行うことができ強く感じました。

また、ふとしたご縁から、北海道大学の先生のご紹介で、道東の町立別海病院にて毎月出張医として外来・手術を担当しておりました。同院は、大阪医科薬科大学病院や市立枚方病院の初期研修プログラムにおける地域医療枠の研修先でもあります。札幌には20年近く訪れておりませんが、別海町には6年間ほぼ毎月勤務しており、地域にも詳しくなりました。母校へのささやかな恩返しとして、研修に来られた初期研修医には手術に参加いただき、夕食を共にし、道東ならではのレクリエーションにもご案内しておりました。そこでのご縁もあり、開業前には枚方東整形外科病院（旧高井病院）にて手外科医として勤務させていただきました。

このように、開業前から母校および仁泉会の先生方のご縁を大切にしていまいりました。

現在、当院では整形外科・皮膚科の保険診療を中心に、患者さま一人ひとりに寄り添った丁寧な診療を心がけております。透視装置とオペ室を備えており、手・肘・足の骨折などに対する日帰り



手術にも対応可能です。地域の皆さまの運動器・皮膚・美容の健康を支える「かかりつけ医」として、信頼される存在を目指してまいります。

今後とも初心を忘れず、日々研鑽を重ねてまいりますので、近隣にお住まいの仁泉会の先生方におかれましては、患者さまのご相談・ご紹介、そして変わらぬご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくご厚意申し上げます。

敬具



K
KOBE ITAYADO CLINIC
ORTHOPEDIC SURGERY
DERMATOLOGY
COSMETIC DERMATOLOGY

神戸板宿クリニック 整形外科・皮膚科・美容皮膚科

- 所在地 〒654-0011 兵庫県神戸市須磨区前池町 3-3-1 森岡セントラルビル 2・3F
- 電話 078-742-6436
- 診療科目 整形外科／手外科
皮膚科／美容皮膚科
- ホームページ <https://www.akegonet.com>



開業しました!

藤森 靖先生 (学46期)

名称 ふじもり形成外科
 住所 〒631-0003 奈良市中登美ヶ丘3丁目3番
 アクロスプラザ奈良登美ヶ丘2階
 電話 0742-93-4360
 FAX 0742-93-4361
 診療科目 形成外科、美容診療
 診療時間 火～日 9:00～12:00
 火～土 13:00～16:30
 火～金 16:30～18:30
 美容診療 火～日 9:00～18:30
 土 9:00～16:30
 日 9:00～12:00
 休診日 月曜・祝日
 ホームページ <https://www.fujimori-prs.jp/>
 仁泉会の先生方に一言
 外傷、皮膚腫瘍、まぶたや爪の手術加療を行っています。

開業しました!

高橋優子先生 (学50期)

名称 ゆう ひらかた乳腺・外科クリニック
 住所 〒573-1191 大阪府枚方市新町1丁目1-1
 そうごうメディカルモール枚方市駅前2F
 診療科目 乳腺外科・外科
 診療時間 月～金 9:00～13:00
 15:00～19:00
 土 9:00～13:00
 休診日 木曜・日・祝日
 ホームページ <https://uhirakata-breast.com/>
 仁泉会の先生方に一言
 今後は地域の乳がん診療に貢献すべく、精進してまいります。
 引き続き、ご指導・ご鞭撻のほどをよろしくお願いたします。

開業しました!

今西将史先生 (学51期)

名称 みよしクリニック
 住所 〒573-1106 大阪府枚方市町楠葉1丁目6番6号
 くずはサングリーンビル2階
 (京阪樟葉駅徒歩3分)
 電話 072-867-3387
 診療科目 内科・呼吸器内科・耳鼻咽喉科・アレルギー科
 診療時間 月～水、金、土 9:00～12:00
 (金は耳鼻咽喉科のみ)
 月、火、木、金 16:00～19:00
 休診日 水・土午後、木午前、日曜・祝日
 ホームページ <https://miyoshi-clinic.net/>
 仁泉会の先生方に一言
 たいへんお世話になります。
 よろしくお願いたします。



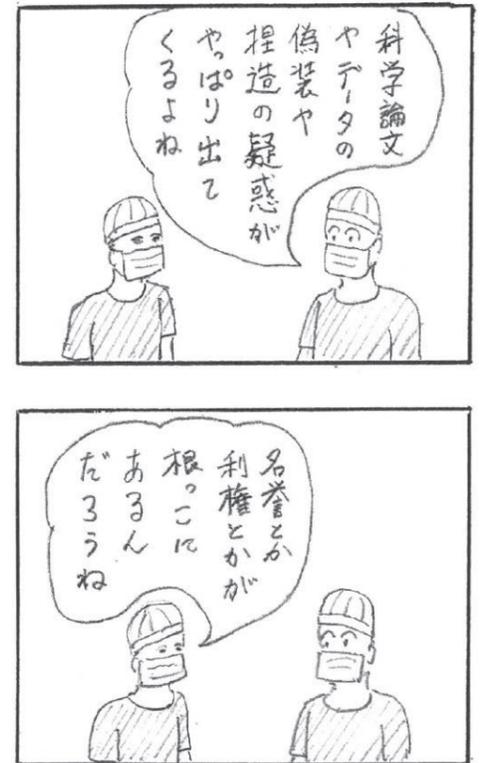
まんが 第77回

ぼん太-1.0 (学31期)

ざんねんなかんじや辞典5



根っ子



直美



本部だより

医師国家試験対策事業報告

医師国家試験対策事業の一環として6年生全員に鉛筆の贈呈を行いました。



支部会開催の予定について

神戸支部新年会

日時：令和8年1月24日（土）

午後6時から

場所：フレンチレストラン イグレックベガ

北区支部総会

日時：令和8年3月21日（土）

午後6時から（予定）

場所：大阪東急 REI ホテル

岡山県支部総会

日時：令和8年3月8日（土）

正午から（予定）

場所：ANA クラウンプラザホテル岡山

※詳細は支部よりお送りされるご案内をご確認ください。



理事会開催報告

令和7年度第4回理事会

日時：令和7年10月18日（土）

午後3時30分～午後4時30分

場所：母校新講義実習棟4階 特別応接会議室

【報告事項】

1. 物故者 18名
2. 全国私立医科大学同窓会連絡会報告
「西部会」令和7年9月27日
於 リーガロイヤルホテル大阪
「全国会」令和7年10月4日
於 ホテルグランヴィア岡山
3. その他 会員新聞掲載

【協議事項】

1. 議事録署名者の件
理事長及び出席監事 可決承認
2. 大学依頼の件
三重県支部への協力依頼について
可決承認
3. 令和8年度総会運営の件
日時、会場について可決承認
4. 仁泉会100周年記念事業の件
継続審議
5. 令和8年度学術集会助成事業の件
募集要項協議 可決承認
6. 次回会議の件
令和8年1月31日（土） 母校にて開催
可決承認

2025年度
学園祭が
開催されました

令和7年10月25日（土）に、大阪医科薬科大学さわらぎキャンパスにて、学園祭を開催いたしました。当日は天候に恵まれない時間帯もございましたが、多くの皆様にご来場いただき、お陰様で大盛況のうちに全日程を終えることができました。心より御礼申し上げます。

今年の学園祭では、学生の部活動による創意工夫を凝らした模擬店に加え、外部からキッチンカーを誘致し、食の楽しみも充実いたしました。また、今年から初めて企画した相撲大会を開催するなど、学生の活力が溢れる新たな試みで大いに盛り上がりを見せました。ステージイベントでは、プロの吉本興業所属芸人様による漫才をご披露いただいたほか、地域の子どもたちと共に企画を実施するなど、地域連携も深めることができました。

例年、最大の盛り上がりを見せる豪華抽選会は、大雨の影響により、例年グラウンドのステージで行っていたものを急遽、卓球場へと会場を変更して実施いたしました。特別ゲストとして安田大サーカス様にお越しいただきましたが、卓球場という限られた空間で開催したことにより、かえってゲストと来場者の皆様との距離が近くなり、一体感のある熱気に包まれた抽選会となりました。

こうした大規模なイベントを成功裡に開催できましたことは、ひとえにOB・OGの皆様からの日頃のご支援、並びにお力添えの賜物であり、学生一同、心より感謝いたしております。

この場をお借りし、改めまして深甚なる御礼を申し上げます。今後とも、学生の自主的なイベント活動に対し、変わらぬご指導、ご鞭撻、そして温かいお力添えを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

大阪医科薬科大学 学友会会長 上野 久（4回生）



会員訃報

次の会員が亡くなりました。
慎んでご冥福をお祈り致します。

事務局編集係

学部6期 河嶋 稔先生

令和7年9月15日慢性心不全の為に逝去（93歳）。

昭和32年卒。

母校卒業後、関西電力病院にて10年間勤務されました。その後、枚方市にて河嶋医院をご開業され、地域医療の発展に尽力されました。

ご遺族 長男 亨様

学部12期 中島孝雄先生

令和7年9月28日肺炎の為に逝去（90歳）。

昭和38年卒。

昭和51年5月、東京都目黒区にて中島医院をご開業され、長きにわたり地域医療を支えておられました。

ご遺族 長男 耕一様

学部16期 石垣 宏先生

令和7年10月14日誤嚥性肺炎にて逝去（84歳）。

昭和42年卒。

稲沢市民病院にて勤務されました。その後、名古屋市西区にて森外科医院をご開業され、地域医療に貢献されました。また名古屋大学外科同門会にてご活躍されました。

ご遺族 長女 聡子様

学部28期 桂 邦雄先生

令和7年9月27日 COVID-19 肺炎の為に逝去（72歳）。

昭和54年卒。

母校卒業後、精神科医局に入局されました。その後、1995年に豊中市にて桂クリニックをご開業され、地域医療の発展に尽力されました。

ご遺族 妻 奈保子様

学部36期 井上美栄先生

令和7年8月3日ご病気の為に逝去（62歳）。

昭和62年卒。

城山病院にて勤務されておりました。

ご遺族 夫 和路様

令和8年度定期評議員会及び総会開催のご案内

令和8年度の総会は下記にて開催いたします。
本年は例年より開始時間を早めております。
今からご予約にお加えいただけますようお願い申し上げます。

記

日 時：令和8年5月31日（日）

評議員会：午後1時から

総 会：午後1時30分から

懇 親 会：午後3時30分から

場 所：ホテルグランヴィア大阪 20階 「鳳凰Aの間」

地元で 50年

薬袋・診察券・カルテなどの

医療印刷

タツミ印刷株式会社

お気軽にご相談下さい。

池田・高槻
tel: 072-761-8434



ハードルをジャンプ!!

編集部より

会費納入のお願い

年会費

令和7年度 10,000円

令和6年度 10,000円

令和5年度 10,000円

納入のご協力をよろしくお願い致します。

事務局 会計係

原稿募集のお知らせ

仁泉会ニュースの原稿を募集しております。日々の診療で感じられた事、研究報告、趣味のお話やクラス会や支部会のご報告なんでも結構です。ご投稿お待ちしております。

●57巻2号（令和8年4月1日発行）

締切 令和8年2月末日

●送付先：仁泉会事務局 〒569-8686 高槻市大学町2-7

E-mail: jimur@jinsenkai.net FAX:072-682-6636

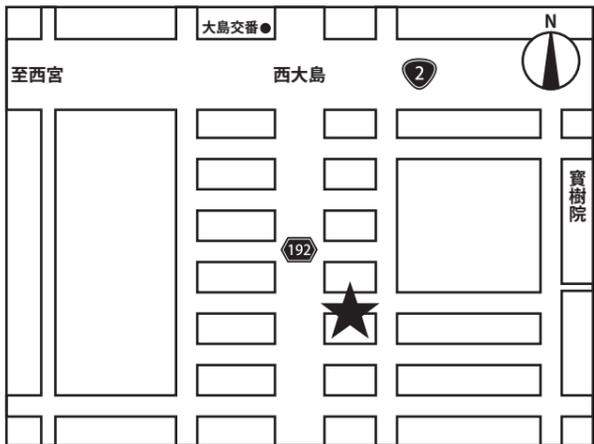
編集後記

今年には午年、60年に一度の丙午になります。60年前の丙午の時は、丙午年生まれの女性は気性が激しく夫を食い殺す、などと大きく報道されたこともあって産み控えが生じ、前年の約182万人より約46万人の減少となりました。いまだ迷信を気にする若い人は少ないでしょうが、それだけでなく出生数の減少は日本の将来にとって

大きな不安要因です。個人の生き方を尊重し、自分ファーストの考えが主流となってきている現代社会では出生数の減少には歯止めがかからないでしょう。子どもを育てることにより子どもの目線で世界を見ることができ、視野が広がりそれは自分自身にとって貴重な体験になると、私は若い人に話しています。(HM)

内科継承物件のご案内

場 所：兵庫県尼崎市大島3丁目36-1
 賃貸物件：59.7坪（家賃385,000円）水上マンション1階（専用駐車場4台）
 開設者種別：医療法人（出資持分あり）
 標榜科目：内科、小児科、放射線科、循環器内科、消化器内科
 開業（開設）：昭和54年6月（平成11年4月法人設立）
 処 方：院外処方
 主な導入機器：電子カルテ、レントゲン設備、デジタル画像診断、超音波設備（腹部、心臓、頸部など）、心電図など
 特 徴：内科一般、循環器、消化器、糖尿病など幅広く診療
 譲渡理由：後継者不在
 当方の希望：2026年3月末には閉院の予定ですので早急に継承可能な方を希望します。条件、譲渡額等をご相談に応じます。



お問い合わせ先
 仁泉会事務局：TEL 072-682-6166
 FAX 072-682-6636
 e-mail jimu@jinsenkai.net
 陳 京生（学21期）

求む!! 老健施設長

《人生100年時代 再就職先に最適です》

《募集内容》
 資 格：医師免許のある方（専門分野問いません）
 勤 務：① 週5日 週39時間程度
 ② 週4日 週32時間以上
 年 収：① 1,200万円（詳細は面談の上）
 ② 1,000万円（詳細は面談の上）



《連絡先》
 郵便番号：621-0046
 住 所：京都府亀岡市千代川町北ノ庄向条24番地（京都縦貫道千代川IC直ぐ）
 最寄り駅：JR嵯峨野・山陰線 千代川駅（送迎可）・（車通勤可）
 電話番号 0771-29-1121
 ホームページ <https://www.osawa-komorebi.com>
 メール kameoka@osawa-komorebi.com

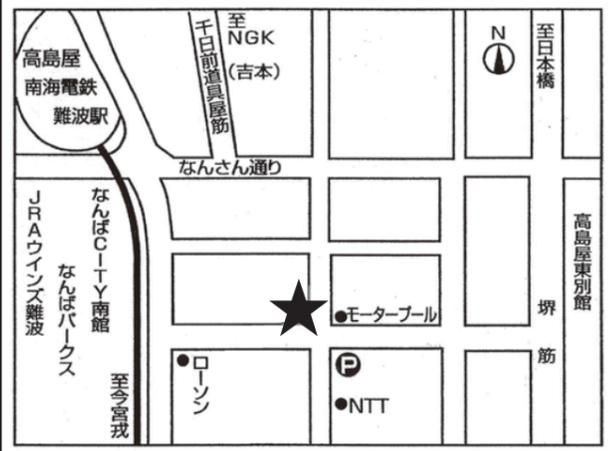


《募集法人》
 医療法人大澤会 介護老人保健施設こもれび
 理 事 長 大澤直也
 担当理事 島田真久（学14期）
 採用担当 田中慶二郎（老健事務長）

テナント募集 消化器内科・内科・心療内科の承継物件

場 所：大阪市浪速区難波中 2-3-3
 募集科目：皮膚科・婦人科を除く全科目
 ※推奨科目：消化器内科・内科・心療内科
 募集区画：2階 35.4坪

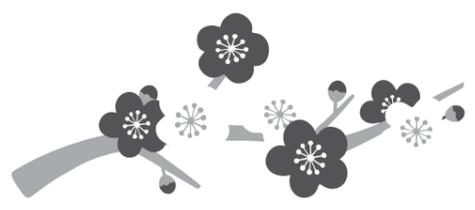
●角地に面しており、視認性良好です
 ●乗降客数の多いなんば駅からのアクセスが抜群です
 ●皮膚科・婦人科盛業中の医療モールです



5F：婦人科クリニック
 4F：皮膚科クリニック
 3F：美容エステ
 2F：募集区画
 1F：日本調剤なんば薬局
 ★各階盛業中
 ★南海電鉄「なんば」駅徒歩2分

■エレベーター設置
 ■内視鏡、腹部・心臓エコー、X線設備等は譲渡対象です。（金額等応相談）
 ○昼夜通して人通りの多いエリアです。周辺はショッピングモールが多く立地しており、視認性抜群です。
 ・賃貸借契約にあたっては、調整・打ち合わせが必要になります。
 ・建物外観や仕様・契約面積等は変更になる可能性があります。

お問い合わせ先
 仁泉会事務局：TEL 072-682-6166
 FAX 072-682-6636
 e-mail jimu@jinsenkai.net



広告募集!

仁泉会ニュースでは、広告の募集もしております。
 ご出稿のタイミングや料金などは事務局までお問い合わせください。
 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
 e-mail / jimu@jinsenkai.net

大阪医科薬科大学女性医師の会 第5回総会のご案内（第1報）

拝啓

新春の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より温かいご支援とご交流を賜り、心より御礼申し上げます。

このたび、「女性医師の会」第5回総会を下記の日時で開催する運びとなりました。

本会は、「思いやりと情熱を持った女性医師を目指して～学年、世代、専門性を越えた 生涯変わらない同窓生のつながり～」をテーマに、年に一度、世代を超えて語り合い、学び合い、刺激を受ける貴重なひとときを共有しております。

おいしいお食事を囲みながら、懐かしい顔ぶれや新たな出会いに触れ、「年代や専門性を越えて同窓で集まる楽しさ」を実感していただける場となっております。百聞は一見に如かず——ぜひ一度、ご参加ください。同窓会を兼ねてご参加くださる学年もあり、クラブや職場の先輩後輩、同級生などお誘い合わせのうえ、気軽にご参加いただければ幸いです。

詳細は、次号の仁泉会ニュース、およびメール配信でご案内いたします。まずは日程のご調整をお願い申し上げます。

記

日時：令和8年6月13日（土）午後4時 受付開始
午後4時30分～5時45分 総会および医療講演会、午後6時～8時 懇親会
医療講演会講師：
愛知医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座教授（特任） 内田育恵先生（学39期）
場所：ホテルグランヴィア大阪

【ホームページのご案内とメール登録】

女性医師の会では、近況報告やイベント情報などを共有できるホームページを運営しています。

会合のご案内等を送らせていただきますのでメールアドレスをご登録下さい。

数年以内にメールアドレスをご変更された方もご連絡ください。届かない事例が増えています。

宛先：omc-women@jinsenka.net（仁泉会事務局内、女性医師の会）

件名：メールアドレス登録（変更）

登録内容：①氏名（旧姓）、②卒業年度もしくは学期、③メールアドレス



ホームページ

大阪医薬大 女性医師の会 検索

ご支援のお願い

至誠仁術を備える人材の育成をめざして

数十年先の未来医療へ

大阪医科大学創立100周年記念事業

大阪医科薬科大学病院 新本館建築プロジェクト

本法人では、2027年に迎える創立100周年に向け「大学病院新本館の建築」と「学生支援体制の充実」を目的に、2018年10月「大阪医科大学創立100周年記念事業募金」を設立しました。設立以来、これまでに患者さんやそのご家族をはじめ、卒業生、保護者の皆様など多くの方々より多大なるご協力を賜りました。これも皆様の深いご理解の賜物と、厚く御礼申し上げます。引き続き、ご支援並びにご協力を賜りますようお願い申し上げます。



募金目的 大学病院新本館の建築、学生支援体制の充実、奨学金制度の拡充
募金目標 10億円
募集期間 ～2027年3月
募集対象 趣旨にご賛同いただける個人・法人の皆様
募金単位 個人：1口1万円、法人・団体：1口10万円
1口未満のご寄付につきましても有難くお受けいたします。

特典 大阪医科薬科大学健康科学クリニック人間ドック（基本コース1名1回分）無料受診券を進呈します。
個人10万円以上、法人・団体50万円以上
申込方法 学校法人大阪医科薬科大学寄付WEBサイトよりお申し込みいただくか、募金推進本部迄ご連絡ください。申し込み先▶



大阪医科薬科大学基金

大阪医科薬科大学基金は、皆さまからのご寄付を積み立てて資金運用を行い、さらに増やしていく仕組みです。基金の拡充は、長期にわたる「教育・研究活動」や「良質な医療の提供」の強化に繋がります。

募集要項

募金単位 個人：1口1万円 法人：1口10万円
申込方法 学校法人大阪医科薬科大学寄付WEBサイトよりお申し込みいただくか、募金推進本部迄ご連絡ください。

【お問い合わせ先】募金推進本部 ☎072-684-7243

税制上の優遇措置

学校法人大阪医科薬科大学は特定公益増進法人です。大阪医科薬科大学に対するご寄付は所得税・法人税・相続税の税制上の優遇措置を受けることができます。また一部の自治体では、個人住民税の税額控除の対象となります。

2025年4月 START 大阪医科薬科大学 × 高槻市ふるさと納税

大阪府高槻市には、ふるさと納税制度により高槻市に所在する大学を支援する制度があり、この制度を通じて、大阪医科薬科大学を指定したご支援をいただくことが可能です。



高槻市ふるさと納税がバメントクラウドファンディングサイトよりお申し込みください。 ※ご寄付に伴う高槻市からの返礼品はございません。 ※高槻市在住の方でもご寄付いただくことが可能です。